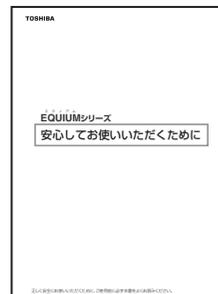


● マニュアルについて

本製品に同梱されているマニュアルを紹介します。

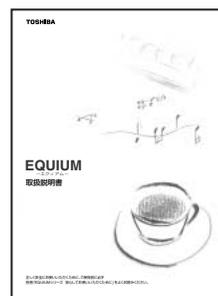
安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いになるときに
守っていただきたいこと
ご使用の前に必ずお読みください。



取扱説明書（本書）

- 接続方法とWindowsのセットアップ
- ハードウェアについて
- パソコンの取り扱い
- 再セットアップ
- 困ったときのQ&A
- BIOSセットアップ



その他の説明、ご案内など

- 保守サービスのご案内
 - ソフトウェアの使用許諾書
 - 付属品チェックリスト
 - 保証書
- など



マニュアルについて	1
もくじ	2
はじめに	5
本書の読みかた	7

1 章 パソコンの準備..... 9

1 同梱品の確認	10
2 各部の名称と機能	11
1 本体正面	11
2 本体背面	13
3 マウス	15
3 接続について	16
1 接続完成図	16
2 ケーブルカバーの取り付け	17
3 ディスプレイ（別売り）の接続	18
4 マウスの接続	22
5 キーボードの接続	22
6 電源への接続	23
4 初めて電源を入れるときは	25
1 電源を入れる	25
2 Windows XP のセットアップ	26
3 Windows 2000 のセットアップ	33
4 ユーザ登録をする	40

2 章 電源の入れかたと切りかた..... 41

1 電源の入れかた	42
2 電源の切りかた	43
1 Windows XP の場合	43
2 Windows 2000 の場合	43
3 省電力機能について	44
1 省電力機能について	44
2 省電力モードについて	45
3 省電力モードへの移行（Windows XP）	46
4 省電力モードへの移行（Windows 2000）	49
5 省電力モードからの復帰	51

3章	ハードウェアについて	53
1	キーボード	54
2	CD-ROMドライブ／マルチドライブ	58
3	PCカード	63
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続	67
5	機器の拡張を行うときは	70
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	72
7	増設メモリ	75
4章	パソコンの取り扱い	79
1	日常の取り扱いについて	80
2	内蔵バッテリーの交換	84
3	廃棄・譲渡について	86
5章	再セットアップ	89
1	再セットアップとは	90
2	標準システムを復元する	91
6章	困ったときは	95
1	困ったときのQ&A	96
7章	BIOS セットアップについて	107
1	BIOS セットアップとは	108
1	BIOS セットアップの起動方法	108
2	BIOS セットアップの操作方法	109
3	BIOS セットアップの内容	110
2	BIOS を工場出荷時設定に戻すには	112
3	Standard CMOS Setup の詳細	114
4	Advanced CMOS Setup の詳細	116
5	Power Management Setup の詳細	118

6	PCI/Plug and Play Setupの詳細.....	122
7	Peripheral Setupの詳細.....	123
8	Auto-Detect Hard Disks	124
9	Passwordの設定	125
付録		127
1	製品仕様	128
2	各インタフェース	132
3	エラーメッセージ	136
4	技術基準適合について	137
	トラブルチェックシート	138

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書は本製品の基本的な取り扱い方を説明しています。

本製品はご購入のモデルにより、システム（OS）が異なります。ご購入のモデルに対応した部分をお読みください。

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

● 記載について

- ・ 本書に記載している画面は、表示例です。実際に表示される画面と異なる場合があります。

● Trademarks

- ・ Intel、Pentium、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ PS/2 は米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。
- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows、Office ロゴは米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Drag'n Drop はイーザーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD は InterVideo, Inc の登録商標または商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標または登録商標として使用している場合があります。

● 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

● お願い

- 記憶装置（ハードディスク、フロッピーディスク）や、CD-R、CD-RW に記憶された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- 購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- 本製品でサポートしているシステム（OS）は次のとおりです。
 - ・ Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
 - ・ Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版上記以外のシステム（OS）は動作の保証を行っておりません。
- ご使用の際は必ず付属の『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

お使いになる前に本体同梱の東芝パソコンお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

● 参照マニュアル

- 本製品で使用するオペレーティングシステム（OS）の説明については、各システムに付属の『ファーストステップガイド』または『クイックスタートガイド』または『Windows のヘルプ』をご覧ください。
- ご購入のモデルによって、次のアプリケーションを添付しています。
 - ・ Microsoft® Office Personal Edition 2003
 - ・ Drag'n Drop CD + DVD（アプリケーション CD-ROM に収録されています）
 - ・ InterVideo WinDVD（アプリケーション CD-ROM に収録されています）

各アプリケーションの説明については、それぞれの『アプリケーションソフトに付属の説明書』または『アプリケーションソフトのヘルプ』をご覧ください。

● 本書の読みかた

● 記号の意味



警告

・”取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷*1を負うことが想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。



注意

・”取扱いを誤った場合、使用者が傷害*2を負うことが想定されるか、または物的損害*3の発生が想定されること”を示します。

*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。



お願い

・データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。



メモ

・知っていると便利な内容を示します。

☞ 参照先を示しています。

本書内の参照先は「 」で示し、他の説明書の参照先は『 』で示しています。

(注) 補足説明をしています。

● 画面の表しかた

画面の全部、または一部を表します。

【例】

Total = XXXX KB

このように画面上または本文中の文字を X で表している場合は、実際にはさまざまな数字や記号が入ります。

● 入力するキーの表現

操作で入力するキーを本文中で表すときには、説明に必要な部分だけを□で囲んで示しています。

- [Y]キーを押す  を押してください。
- [I]キーを押す  を押してください。
- [Space]キーを押す  を押してください。

● 操作の表しかた

操作や作業は、次のように示します。

【例】

操作が1つで済む場合は、次のように示します。

[Y]キーを押す

キーを「+」でつないで書いてあるときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。

[Ctrl] + [Alt] + [Delete]キーを押す

[Ctrl]キーと[Alt]キーを押したまま[Delete]キーを押します。

● 用語について

本書では、次の用語について定義します。

- システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。
- Windows XP Microsoft® Windows®XP Professional operating system 日本語版を示します。
- Windows 2000 Microsoft® Windows®2000 Professional operating system 日本語版を示します。
- Windows Windows XP、Windows 2000 を示します。
- LAN インタフェース 特に説明がない場合は、パソコン本体に実装されている 10BASE-T および 100BASE-TX 対応の LAN インタフェースを示します。
- アプリケーションまたはアプリケーションソフト
..... アプリケーションソフトウェアを示します。
- CD-ROM モデル CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。
- マルチドライブモデル マルチドライブが内蔵されているモデルを示します。
- Office 搭載モデル Microsoft® Office Personal Edition 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

1

パソコンの準備

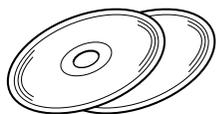
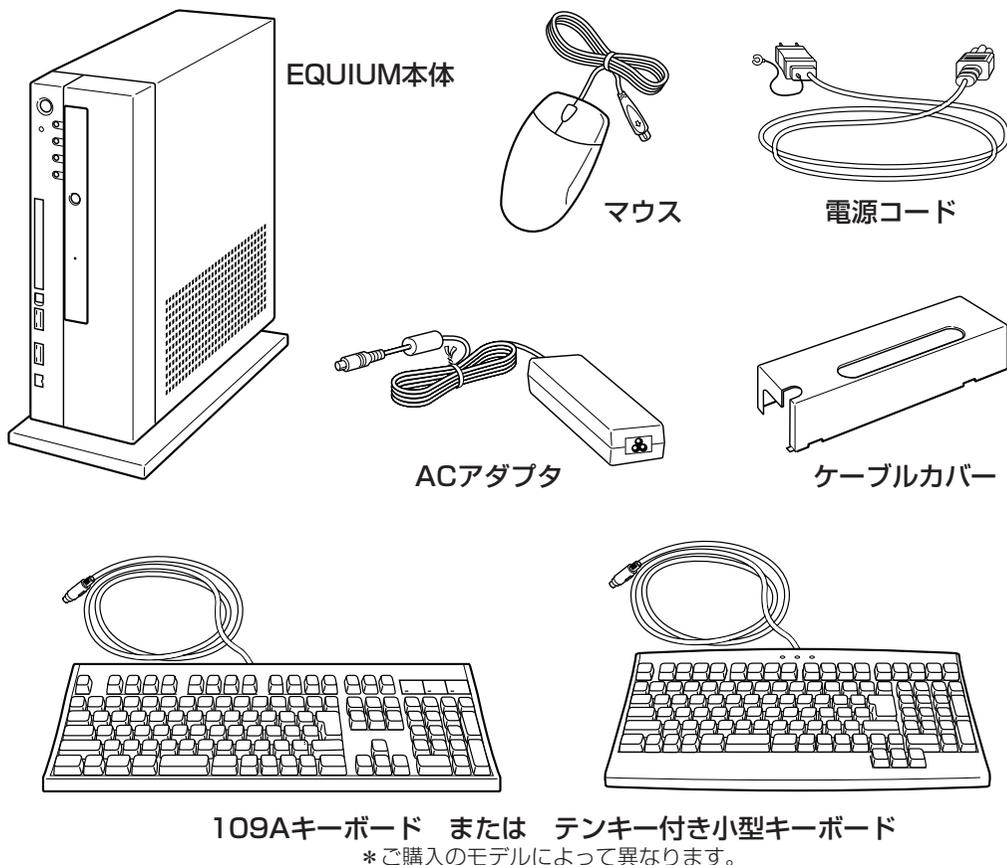
本章では、パソコンの電源を入れる前に、必要な準備と「Windows セットアップ」について説明します。

1	同梱品の確認	10
2	各部の名称と機能	11
3	接続について	16
4	初めて電源を入れるときは	25

1 同梱品の確認

主な同梱物を次にあげます。添付の『付属品チェックリスト』にて梱包箱の中の付属品をご確認ください。

万一、本製品に不都合な点が生じた場合は、東芝営業窓口または、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまでご連絡ください。



リカバリ用CD-ROMなど
詳細は『付属品チェックリスト』をご覧ください。

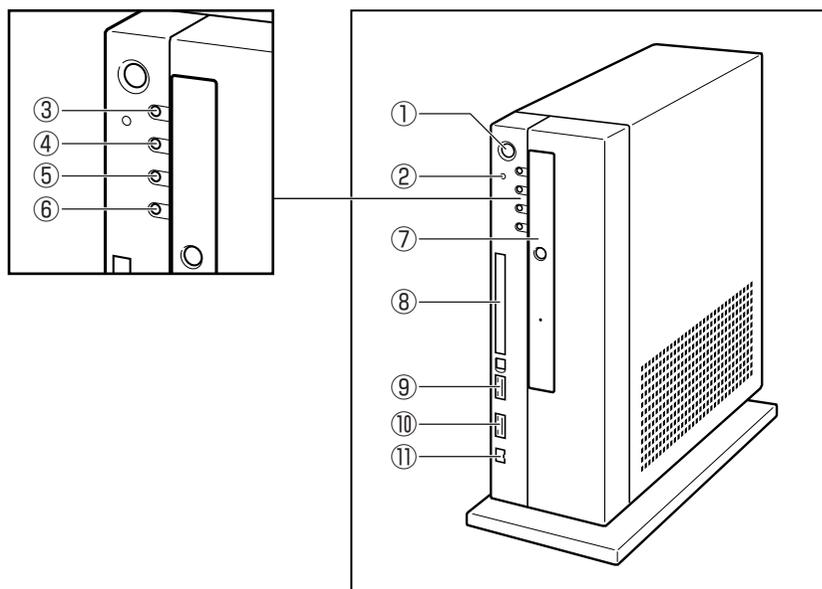
(注) 同梱されているマニュアルについては、「マニュアルについて」をご覧ください。また、この他にも、同梱物があります。『付属品チェックリスト』をご覧ください。



- ・アプリケーションCD-ROMには、ご利用になれるドライバおよびアプリケーションが入っています。アプリケーションCD-ROMの詳細については、アプリケーションCD-ROMをセットし、表示される初期画面をご覧ください。
- ・システムをWindows 2000から、Windows XPに変更する場合は、Windows XPの市販品の購入が必要です。本製品に対応のドライバは東芝PC総合情報サイト [http://dynabook.com/] に掲載予定です。ただし、対応可能な機能には制限があります。

② 各部の名称と機能

① 本体正面



お願い

・スイッチ類を強く押し込まないでください。

本体が壊れるおそれがあります。

通常モードから省電力モードへの切り替えおよび省電力モードの解除には、多少時間がかかります（システムの状態によって異なります）。

① 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるためのスイッチです。電源を入れるときは、電源スイッチを押し、④の電源ランプ  が点灯したことを確認してから離します。

Windows が起動した状態で押すと、省電力モードになったり、省電力モードから復帰したりします。4 秒以上押し続けた場合は強制的に電源が切られます。強制的に電源が切られると、作成中のデータは消失します。

 電源の入れかた／切りかたについて ⇨ 「2 章 電源の入れかたと切りかた」

② リセットスイッチ

電源を入れた直後の初期状態にするスイッチです。先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押ししてください。



お願い

・システムが操作不能になったとき以外は使用しないでください。

③ DC IN ランプ

電源コードを接続しているときに緑色に点灯します。

④ 電源ランプ

電源が ON のとき緑色に点灯します。

パソコン本体がスタンバイのときは緑色に点滅します。



- ・電源ランプ  が緑色に点滅しているときは電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。このとき、パソコン本体は省電力モードになっています。ディスプレイの画面には何も表示されませんが、実際には電源が入っていますので、電源スイッチを 4 秒以上押すと強制的に電源が切れ、作成中のデータが消失します。

 省電力モードについて  「2 章 3 省電力機能について」

⑤ HDD アクセスランプ

ハードディスクドライブの読み書きが行われているときに緑色に点灯します。



- ・電源が入っている状態で本体に衝撃、振動を与えないでください。HDD アクセスランプ  が消灯していてもハードディスクドライブのヘッドはデータエリアにあります。
- ・パソコン本体の電源を切るとハードディスクドライブのヘッドは自動的に退避し、ハードディスクドライブのモータ回転が停止するまでには、約 30 秒かかります。そのため、パソコン本体を移動するときは、電源を切って 30 秒以上経過してからにしてください。衝撃によってデータエリアを破壊するおそれがあります。

⑥ アクセスランプ

CD-ROM ドライブまたはマルチドライブにアクセスしているときに、緑色に点灯します。

⑦ CD-ROM ドライブ／マルチドライブ

内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

 「3 章 2 CD-ROM ドライブ／マルチドライブ」

⑧ PC カードスロット

PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（Card Bus 対応カードも含む）を接続します。

 「3 章 3 PC カード」

⑨ USB コネクタ 1

USB2.0/1.1 対応機器を接続できます。

⑩ USB コネクタ 2

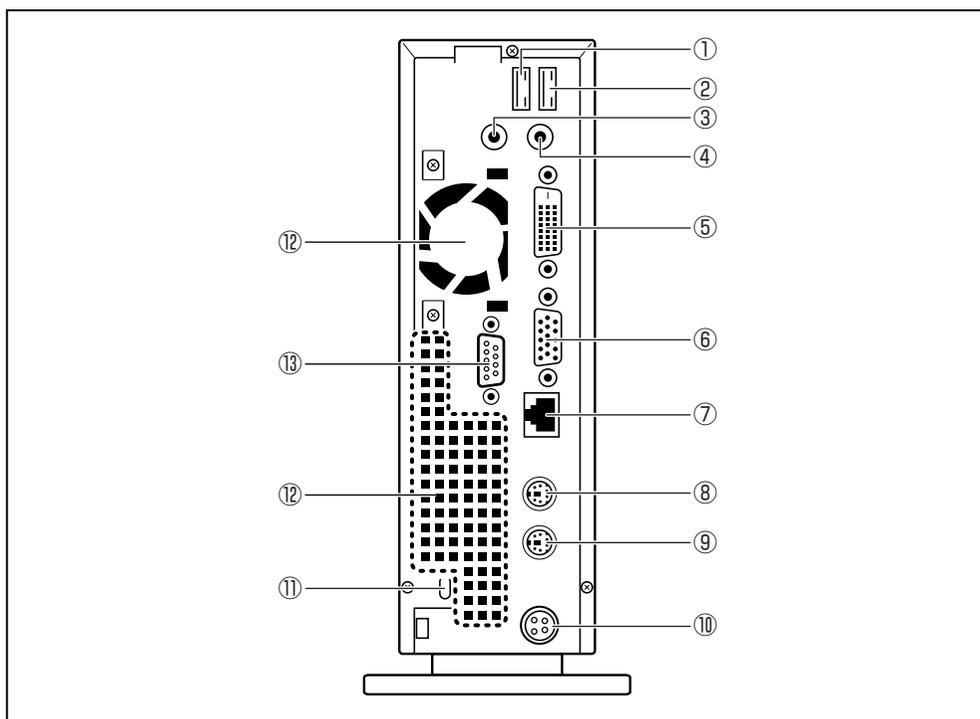
USB2.0/1.1 対応機器を接続できます。

⑪ i.LINK (IEEE1394) コネクタ

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続できます。

 「3 章 4 i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続」

2 本体背面



① USB コネクタ 3

USB2.0/1.1 対応機器が接続できます。

② USB コネクタ 4

USB2.0/1.1 対応機器が接続できます。

③ マイク端子

3.5 φ mm モノラルミニジャックタイプのマイクが接続できます（本製品にマイクは付属していません。パソコン用コンデンサマイクをお買い求めください）。

④ LINE OUT 端子

3.5 φ mm ステレオミニジャックタイプのスピーカが接続できます（本製品にはスピーカは付属していません。アンプ付きスピーカをお買い求めください）。

⑤ デジタル RGB コネクタ *DVI*

DVI 準拠のディスプレイをつなげるためのコネクタです。他社製デジタル RGB ディスプレイにつなげた場合、正常に表示できない場合があります。

☞ 「本章 3-3 ディスプレイ（別売り）の接続」

⑥ アナログ RGB コネクタ

アナログ RGB ディスプレイを接続します。

☞ 「本章 3-3 ディスプレイ（別売り）の接続」

⑦ LAN コネクタ 

ネットワークケーブルを接続します。ネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定を行ってください。

⑧ キーボードコネクタ 

付属のキーボードを接続します。

☞ 「本章 3-5 キーボードの接続」

⑨ マウスコネクタ 

付属の PS/2 マウスを接続します。

☞ 「本章 3-4 マウスの接続」

⑩ DC ジャック 

AC アダプタを接続します。

☞ 「本章 3-6 電源への接続」

⑪ セキュリティロックスロット

市販の盗難防止用チェーンロック等を取り付けます。

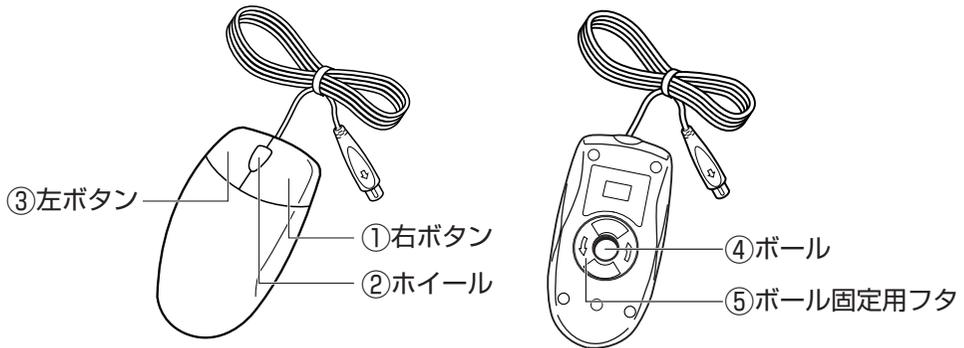
⑫ ファン／通風孔

本体内部で発生する熱を放出します。ふさがないでください。

⑬ シリアルコネクタ (RS-232C、COM) 

外付けモデムなどが接続できます。

3 マウス



① 右ボタン

操作を取り消したり、文字やアイコンのコピーを行います（アプリケーションにより、機能が異なります）。

② ホイール

画面のスクロールなどができます（ホイール付きマウス対応のアプリケーションで使用できます）。

③ 左ボタン

文字やアイコンを選択することができます（アプリケーションにより、機能が異なります）。

④ ボール

マウスの中に入っています。ボールが転がる方向に合わせて画面上のマウスポインタが移動します。

⑤ ボール固定用フタ

ボールが飛び出さないように押さえているフタです。マウスのお手入れのときのみ、取りはずしてください。

3 接続について

ケーブル類を接続する際には、次のことにご注意ください。

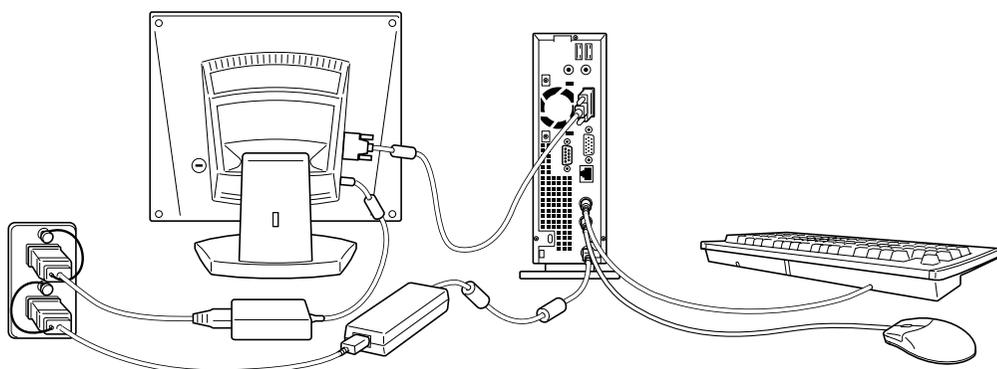
- 本体および接続する機器の電源を切る
- ケーブル類の取り付け／取りはずしは、必ずコネクタを持って行う
- コネクタの形状に注意して差し込み、コネクタに固定ネジがある場合はしっかりと固定する
- 次のものは、システムのセットアップが終了してから接続する
 - ・ LAN ケーブル
 - ・ 増設メモリ
 - ・ PC カード
 - ・ USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの周辺機器



・ケーブル類を本体に接続した状態で、ケーブル類に無理な力を加えないでください。ケーブル類の破損および、本体の故障の原因となります。

1 接続完成図

EQUIUM を接続した例を次に示します。



(注) EQUIUM にディスプレイは同梱されておりません。

② ケーブルカバーの取り付け

本装置にはケーブルカバーが付属しています。

ケーブルカバーを取り付けることにより、本体背面に接続したケーブル類をすっきりとまとめることができます。

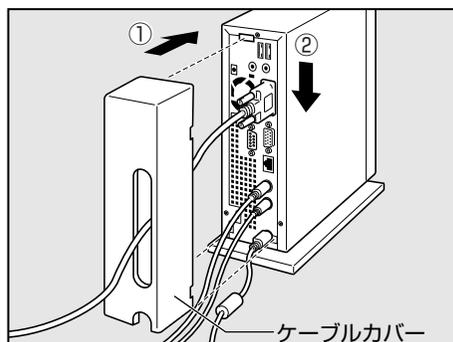
ケーブルカバーの取り付けは、その他の付属品を本体に接続しながら行います。

ここでは、ケーブルカバーの取り付け手順のみを説明します。

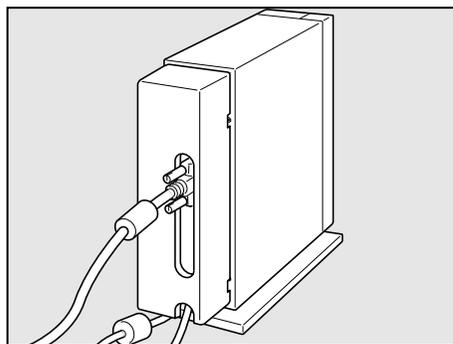
● 取り付け方法

*イラストはデジタルRGB信号ケーブルの場合です。

- 1** ディスプレイを接続するとき、RGBケーブルまたはデジタルRGB信号ケーブルをケーブルカバーの穴に通す
☞ 「本節 3 ディスプレイ（別売り）の接続」
- 2** キーボードのケーブルとACアダプタのケーブルをケーブルカバーの下から出す
☞ 「本節 6 電源への接続」
- 3** パソコン本体の溝にケーブルカバーのツメを合わせ①、下に引いて取り付ける②



● 取り付け完成図



③ ディスプレイ（別売り）の接続

接続の際は『ディスプレイに付属の説明書』をご覧ください。ディスプレイは必ず接続してください。



警告 ・電源コードのプラグから出ているアース線は、感電を防止するための電線です。コンセントのアース端子に接続しておく、万一漏電した場合の感電を防止します。安全のために必ず接続してください。



お願い

- ・電源コードは、必ず付属の電源コードをお使いください。市販の電源コードや他の電気製品の電源コードには、形状が同じでも定格電圧・電流が異なるものがあります。
- ・電源コードを接続する場合は、(1)アース線、(2)プラグの順に行ってください。

● デジタルRGBディスプレイの接続

ディスプレイ側のコネクタ、ケーブルの接続については『ディスプレイに付属の説明書』をご覧ください。



メモ

- ・デジタルRGBディスプレイをご使用の場合の最大解像度は1280 × 1024となります。

● 取り付け

1 ディスプレイの電源、本体の電源が切れていることを確認する

2 ディスプレイに付属のデジタルRGB信号ケーブル、オーディオケーブル、ACアダプタをディスプレイに取り付ける

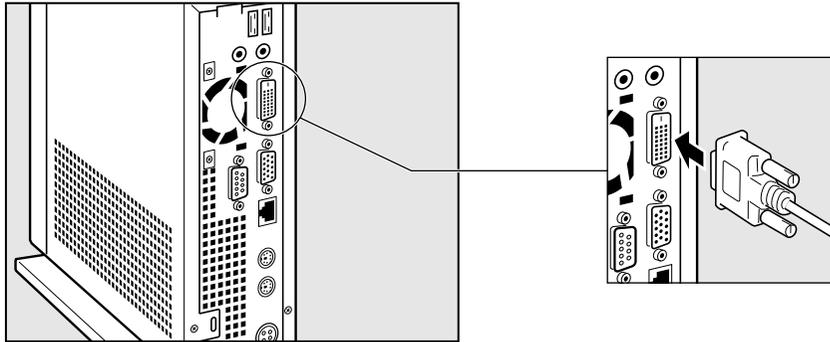
☞ 詳細について ⇨ 『ディスプレイに付属の説明書』



メモ

- ・ディスプレイの機種によっては、オーディオケーブルが付属しない場合があります。この場合は、別売りのオーディオケーブルを使用する、またはパソコン本体背面のLINE OUT端子にスピーカを接続してください。
 - ・ディスプレイの機種によっては、オーディオ端子がない場合があります。この場合は、パソコン本体背面のLINE OUT端子にスピーカを接続してください。
- ☞ 詳細について ⇨ 『ディスプレイに付属の説明書』

3 デジタルRGB信号ケーブルコネクタを本体背面のデジタルRGBコネクタ DVI に接続し、固定用ネジを手で回して固定する



お願い

・固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。

4 オーディオケーブルを本体背面の LINE OUT 端子 (☎) に接続する

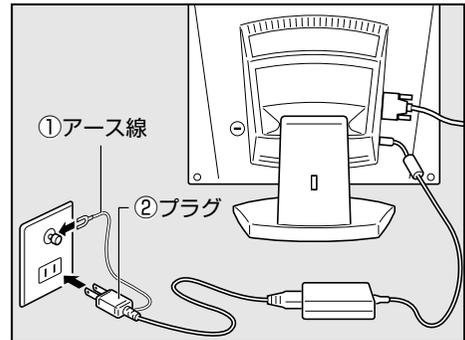


メモ

・ディスプレイの機種によっては、オーディオケーブルが付属しない場合があります。この場合は、別売りのオーディオケーブルを使用する、またはパソコン本体背面の LINE OUT 端子にスピーカを接続してください。

5 電源コードのアース線をアース端子に接続する①

6 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



注意 ・AC100V以外のコンセントには差し込まないでください。

● 取りはずし

デジタルRGB信号ケーブル、オーディオケーブル、ACアダプタを、ディスプレイから取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順を行ってください。

電源コードを取りはずす場合は、(1)プラグ、(2)アース線、(3)ACアダプタの順に行ってください。



お願い

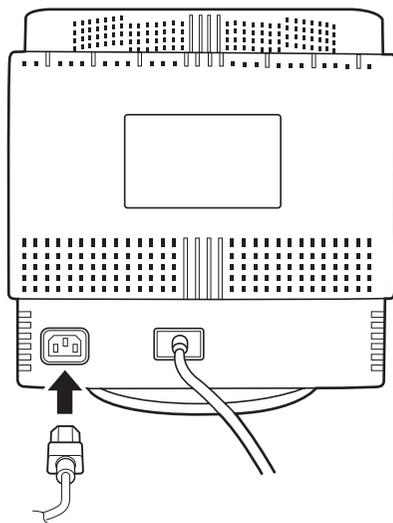
デジタルRGB信号ケーブルを本体から取りはずす場合は、デジタルRGB信号ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがデジタルRGBコネクタから完全にはずれた状態で行ってください。

固定用ネジがデジタルRGBコネクタに接続された状態で、デジタルRGB信号ケーブルに無理な力を加えると、デジタルRGB信号ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

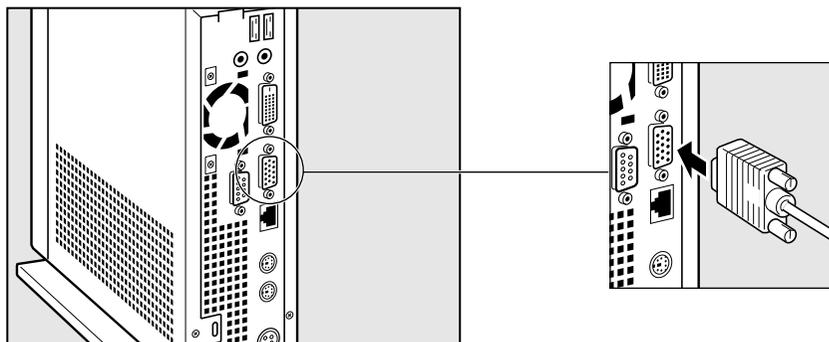
● アナログRGBディスプレイの接続

● 取り付け

- 1 ディ스플레이の電源、本体の電源が切れていることを確認する
- 2 電源コードをディスプレイ背面にある電源コネクタに差し込む



3 RGB ケーブルコネクタを本体背面のアナログ RGB コネクタ □ に接続し、固定用ネジを手で回して固定する

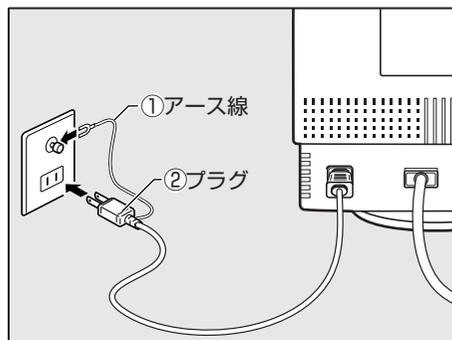


お願い

・固定用ネジは、必ず手で回して固定してください。ドライバなどを使用すると固定用ネジが破損するおそれがあります。

4 電源コードのアース線をアース端子に接続する①

5 電源コードのプラグを電源コンセント (AC100V) に差し込む②



注意 ・AC100V 以外のコンセントには差し込まないでください。

● 取りはずし

RGB ケーブル、電源コードを、ディスプレイから取りはずす場合は、ディスプレイの電源と本体の電源が切れていることを確認し、取り付けと逆の手順を行ってください。電源コードを取りはずす場合は、(1)プラグ、(2)アース線の順に行ってください。



お願い

・RGB ケーブルを本体から取りはずす場合は、RGB ケーブルコネクタの固定用ネジを手でゆるめ、固定用ネジがアナログ RGB コネクタから完全にはずれた状態で行ってください。固定用ネジがアナログ RGB コネクタに接続された状態で、RGB ケーブルに無理な力を加えると、RGB ケーブルの破損、および、本体の故障の原因となります。

4 マウスの接続



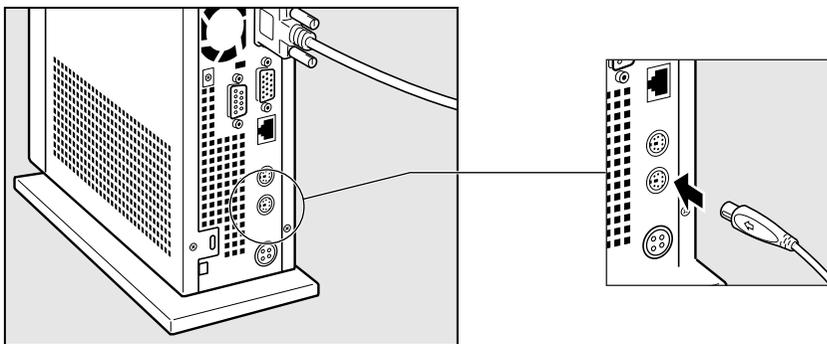
お願い

・マウスの接続は、本体の電源が切れている状態で行ってください。
本体の電源が入った状態で接続すると、本体の故障の原因となることがあります。

1 本体の電源が切れていることを確認する

2 マウスのプラグを本体背面のマウスコネクタ  に差し込む

マウスは、プラグに印刷されている矢印マークを左にして、しっかりと奥まで差し込んでください。



5 キーボードの接続



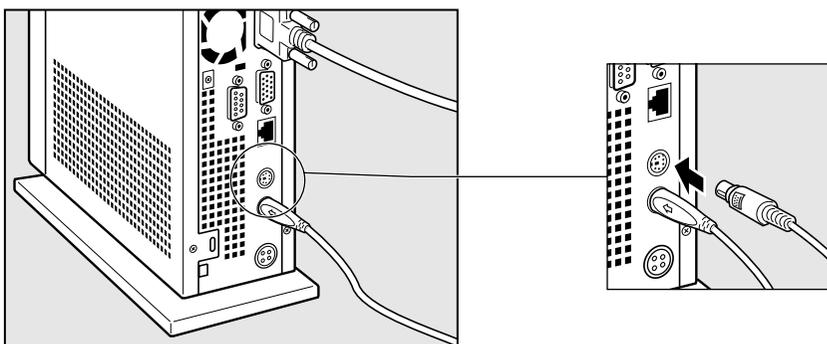
お願い

・キーボードの接続は、本体の電源が切れている状態で行ってください。
本体の電源が入った状態で接続すると、本体の故障の原因となることがあります。

1 本体の電源が切れていることを確認する

2 キーボードのプラグを本体背面のキーボードコネクタ  に差し込む

キーボードは、プラグに印刷されているアイコンを左にして、しっかりと奥まで差し込んでください。



6 電源への接続

空調機や複写機などの高い消費電力を必要としたり、ノイズを発生させる機器と同じコンセントから電源を取らないでください。

定格電圧	AC100V (50Hz/60Hz)
消費電力	最大120W



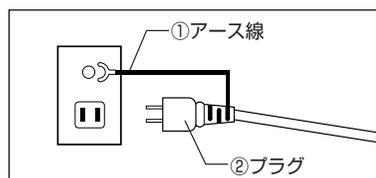
警告

- ・電源コードは付属のアース線付き 2 ピンコードを使用してください。
- ・アース線は感電を防止するための電線です。コンセントのアース端子に接続しておくと、万一漏電した場合の感電を防止します。安全のために必ず接続してください。



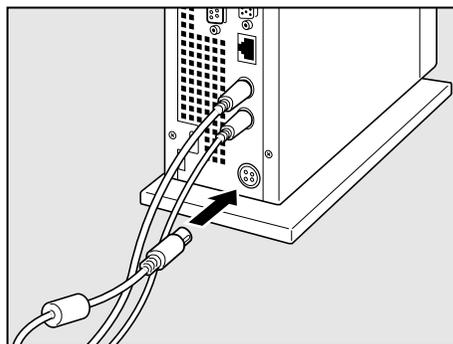
お願い

- ・電源コードの接続は、最後に行ってください。
- ・電源コードの接続は、①アース線、②プラグの順に行ってください。取りはずす場合は、取り付けと逆の順番（プラグ→アース線）で行ってください。
- ・コンセントから抜くときは必ず差し込みプラグを持って引き抜いてください。
- ・コードの上に重いものを載せないでください。
- ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、結んだり、つぎ足したりしないでください。
- ・熱器具に触れないよう、十分な距離をとってください。

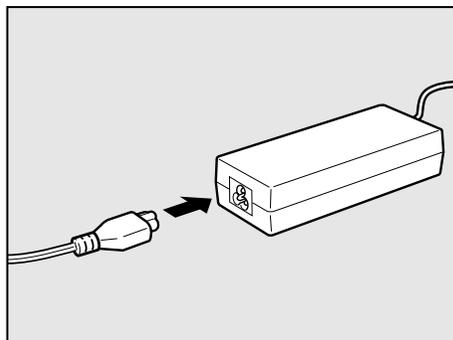


1 ディスプレイの電源スイッチが切れていることを確認する

2 AC アダプタのプラグを本体背面の DC ジャックに差し込む



3 AC アダプタと電源コードを取り付ける



4 電源コードのアース線をアース端子に接続する

5 電源コードのプラグを電源コンセントに接続する

電源コードを接続したら、DC IN ランプ  が緑色に点灯することを確認してください。

電源からはずすときは、電源コードのプラグ→アース端子→ACアダプタの順で行ってください。

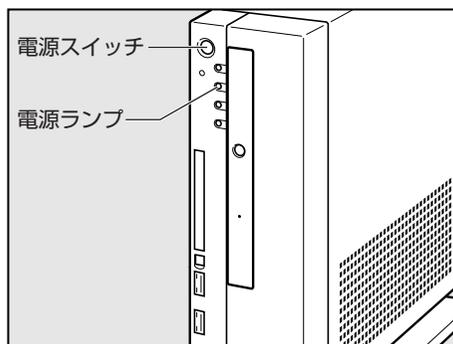
4 初めて電源を入れるときは

1 電源を入れる

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ  を押す

電源ランプ（本体前面の緑色のランプ） が点灯します。本製品は電源 ON 時、自動的にセルフテストを実行します。



パソコン本体の電源を初めて入れるときは、Windows を使えるようにするために、「Windows セットアップ」という操作が必要です。

1 度 Windows のセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐに Windows を使用することができます。

本製品には、次のモデルがあります。

- ・ Windows XP モデル
- ・ Windows 2000 モデル

セットアップの方法はシステムによって異なります。ご購入のモデルを確認のうえ、システムに応じたセットアップ手順をご覧ください。

● セットアップをするときのご注意



- ・ マウスとキーボードが接続されていることを確認してください。接続していないと、セットアップを行うことができません。
- ・ 増設メモリや PC カードを取り付けたり、プリンタなどを接続していると、正しくセットアップできない場合があります。ディスプレイやマウス、キーボード以外の周辺機器の取り付けや接続はシステムのセットアップ終了後に行ってください。
- ・ セットアップを行うときは、LAN ケーブルは接続しないでください。LAN ケーブルが接続されていると、ネットワークの設定が既定値 (default) のままネットワークに接続してしまうため、ネットワークに障害をもたらす場合があります。
- ・ システムのセットアップ中は、絶対に電源を切らないでください。
- ・ やむをえない場合以外は、セットアップ中にキャンセルしないでください。正しくセットアップできない場合があります。
- ・ ケーブル類が確実に接続されていることを、もう 1 度確認してください。
- ・ セットアップを行わないと、あらかじめインストールされているシステム (Windows XP / 2000) やアプリケーションを使用することはできません。



メモ

- ・15分以上キーを押さない（マウスの操作も含む）場合、省電力機能がはたらき、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。電源ランプ  が点灯している場合は **[Shift]** キー、電源ランプ  が点滅している場合は **[Shift]** キーまたは電源スイッチを押すと画面に表示されます（4秒以上電源スイッチを押し続けると、電源が切れますので、短く押してください）。
- ・リカバリ CD-ROM でシステムの復元を行った場合にも、「Windows セットアップ」の作業が必要です。

② Windows XP のセットアップ

Windows XP のセットアップでは、次のことを行います。

- マイクロソフト 使用許諾契約書（Windows のライセンス）への同意
マイクロソフト 使用許諾契約書の内容をお読みにになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、**[同意します]** を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- 管理者パスワードの設定
Administrator のパスワードを入力します。
- ユーザ名の設定
ユーザ名の設定を行います。

ネットワークに接続する設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合の手順を説明します。

ネットワークの設定を行う場合は、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

- ・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

● セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、[Microsoft Windowsへようこそ] 画面が表示されます。



・Windows セットアップのヘルプを表示するには、画面右下の  ボタンをクリックするか **[F1]** キーを押します。

1 [次へ] ボタンをクリックする [使用許諾契約] 画面が表示されます。



2 画面下部の【同意します】をチェックし、【次へ】ボタンをクリックする

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックして画面をスクロールさせてください。

なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



・【同意しません】を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

【コンピュータに名前を付けてください】画面が表示されます。



3 【このコンピュータの名前】にコンピュータ名を入力し、【次へ】ボタンをクリックする

コンピュータ名の付けかたに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

【管理者パスワードを設定してください】画面が表示されます。



4 [管理者パスワード] にパスワードを入力する

Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。

パスワードには半角の英数字および記号を使用することができます。

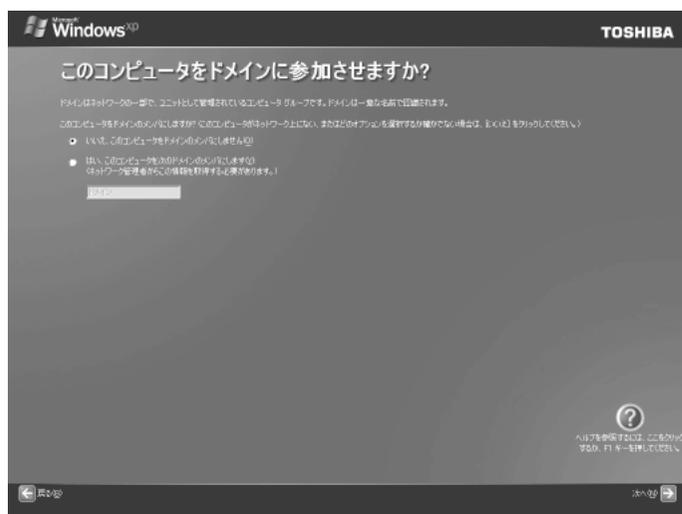


お願い

・パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。
例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

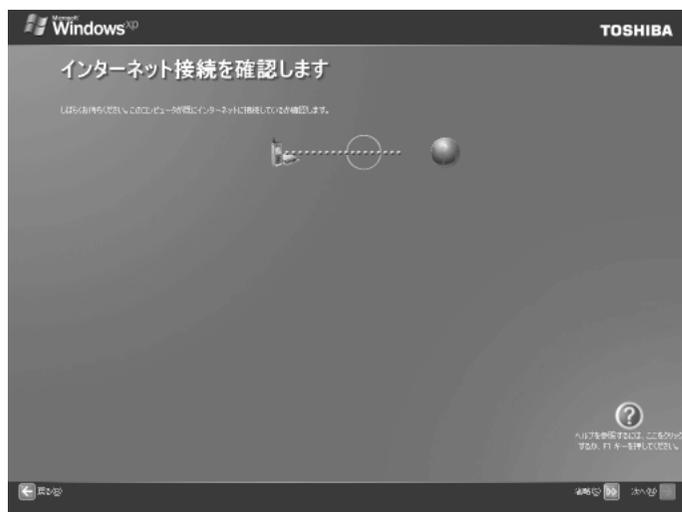
5 [パスワードの確認入力] にもう 1 度パスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータをドメインに参加させますか?] 画面が表示されます。

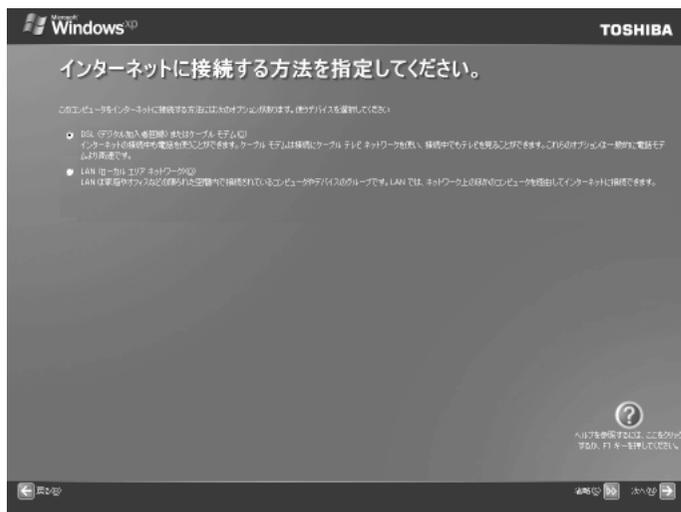


6 [いいえ、このコンピュータをドメインのメンバーにしません] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[インターネット接続を確認します] 画面が表示されます。



ここではまだインターネットに接続していないので [省略] ボタンを押してください。[省略] ボタンを押さなくても、しばらくすると [インターネットに接続する方法を指定してください] 画面が表示されます。



7 [省略] ボタンをクリックする

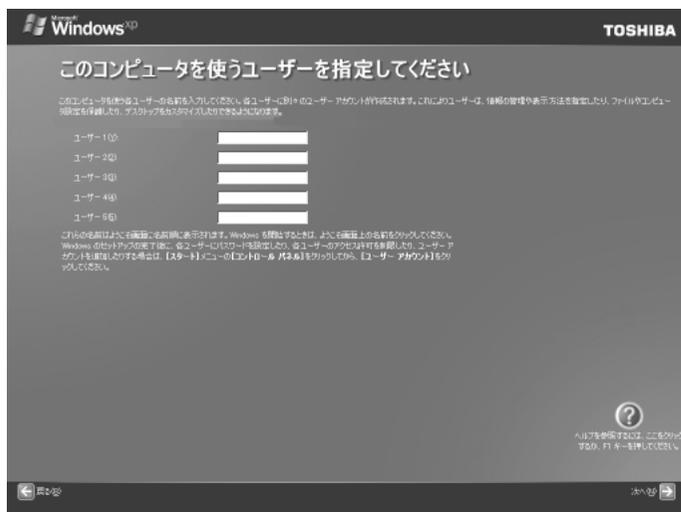
[Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面が表示されます。



8 [いいえ、今回はユーザー登録しません] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。



9 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する

Windows XP では複数 (5 人まで) のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

「|」(カーソル) が表示されている位置から文字などを入力できます。



メモ

・ ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例： “なかた” または “中田” と入力する場合

1 [N][A][K][A][T][A] とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、[Back space] キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、[Enter] キーを押す

“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は [Space] キーを押し、目的の漢字が表示されたら、[Enter] キーを押す

[Space] キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。[Enter] キーを押すと、選択した漢字で確定します。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。



11 [完了] ボタンをクリックする

Windows のセットアップが終了してパソコンが再起動し、デスクトップ画面が表示されます。



メモ

- ・ご購入時のパーティション設定は、約半分の領域が C ドライブ (NTFS) に設定されています。残りの領域をドライブとして使用するには、「ディスクの管理」を使用してください。ハードディスクを 2 台搭載したモデルの場合は、1 台目のハードディスクの全領域が C ドライブ (NTFS) に設定されています。2 台目のハードディスクの領域をドライブとして使用するには、「ディスクの管理」を使用してください。
- ・東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。
🔗 ユーザ登録 ⇨ 「本節 4 ユーザ登録をする」

● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『Microsoft Windows XP Professional ファーストステップガイド』、または [スタート] - [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポートセンター』をご覧ください。

3 Windows 2000 のセットアップ

Windows 2000 のセットアップでは、次のことを行います。

- マイクロソフト 使用許諾契約書 (Windows のライセンス) への同意
マイクロソフト 使用許諾契約書の内容をお読みにになり、契約内容に同意するかしないかを選択してください。なお、[同意する] を選択しないと、Windows を使用することはできません。
- ユーザー情報の登録
名前、会社名または組織名 (省略可能) を登録します。
- コンピュータ名の指定
使用するコンピュータ名と Administrator のパスワードを入力します。
コンピュータ名の付けかたに関しては、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 日付と時刻の設定
[日付と時刻の設定] 画面でパソコンの日付と時刻を設定します。セットアップ後に変更することが可能です。
- ネットワークの設定
ワークグループまたはドメイン名の設定を行います。
ネットワークの設定は、必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。



お願い

・ Product Key がパソコン本体に貼られている Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルに印刷されています。
Microsoft "Certificate of Authenticity" ラベルは、はがしたり傷つけたりなどして、絶対になくさないでください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

● セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

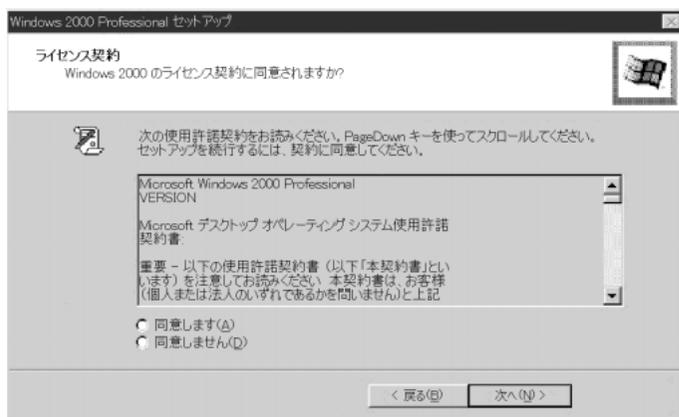


1 【次へ】 ボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックするか、[PageUp] キー／[PageDown] キー（109A キーボードの場合）、または [Fn] + [PgUp] キー／[Fn] + [PgDn] キー（テンキー付き小型キーボードの場合）を使って、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】ボタンをクリックする



・ [同意しません] を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

[ソフトウェアの個人用設定] 画面が表示されます。



3 名前と組織名を入力する

名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後 **[Tab]** キーを押します。



メモ

・日本語入力システムが起動しています。

ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

例：“なかた” または “中田” と入力する場合

1 **[N][A][K][A][T][A]** とキーを押す

“なかた” と表示されます。入力ミスをした場合は、**[Back space]** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、**[Enter]** キーを押す

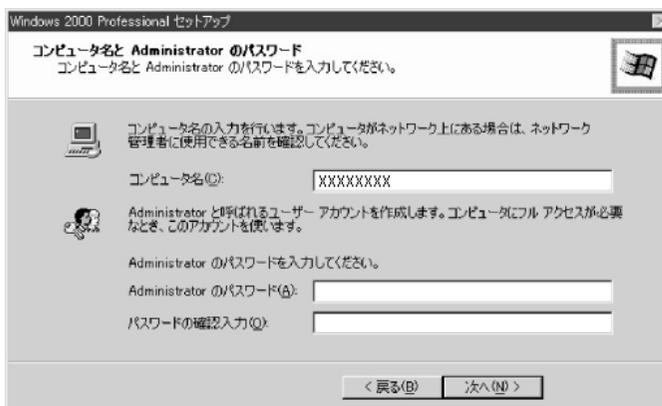
“なかた” で確定されます。

漢字に変換する場合は **[Space]** キーを押し、目的の漢字が表示されたら、**[Enter]** キーを押す

[Space] キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。**[Enter]** キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名の付けかたに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには半角の英数文字および記号を使用することができます。



お願い

・パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。

例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



7 [日付と時刻] の設定をする

日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



9 ネットワークの設定をする

ネットワークの設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。

標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。



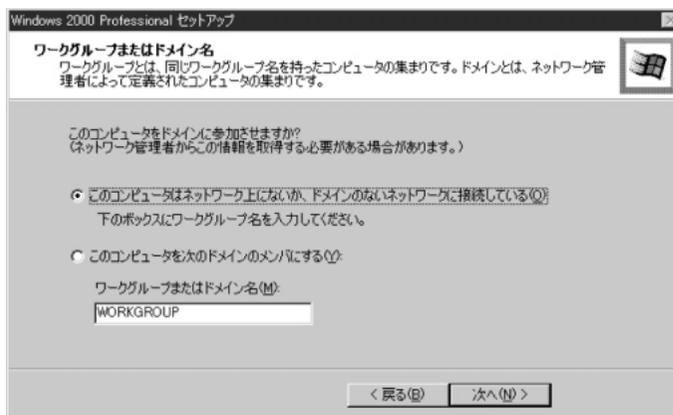
- ・ 標準設定：Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、アドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。
- ・ カスタム設定：手でネットワークコンポーネントを構成することができます。



・お使いのネットワーク環境によって設定が異なりますので、ネットワークの設定は必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメイン名の設定はネットワーク管理者にお問い合わせください。ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ（ドメイン）名を入力してください。



・お使いのネットワーク環境によって設定、およびワークグループ（ドメイン）名が異なります。必ずネットワーク管理者にお問い合わせください。

12 [次へ] ボタンをクリックする

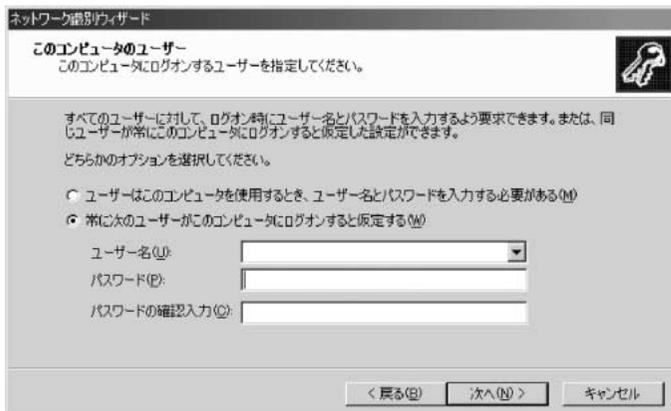
設定を保存後、再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。

ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



13 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



14 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- 「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」
..... 指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
- 「常に次のユーザーがコンピュータにログオンすると仮定する」
..... 指定したユーザで自動的にログオンします。
ここで指定できるユーザは手順 3 で入力した名前、あるいは Administrator です。
▼ ボタンをクリックして選択してください。

15 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。

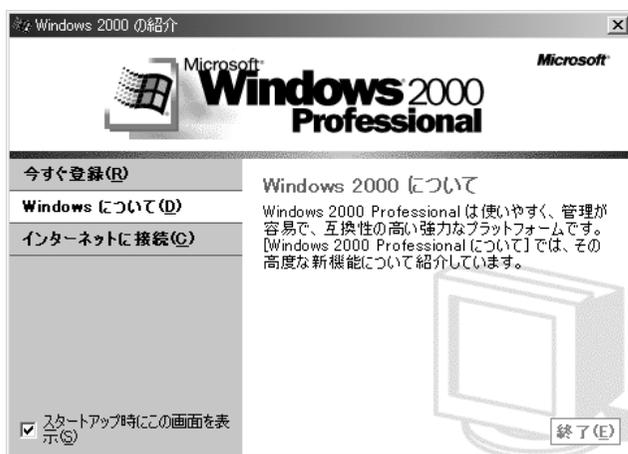


16 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000 のセットアップを完了しました。

手順 14 で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…」を選択した場合、[Windows へログオン] 画面が表示されます。Administrator のパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックすると、Administrator でログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。

手順 14 で「常に次のユーザーがコンピュータに…」を選択した場合、指定されたユーザー (Administrator または例：中田) で自動的にログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。



メモ

- ・ [Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス (スタートアップ時にこの画面を表示) をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。
 - ☞ [Windows 2000 の紹介] 画面を再表示する方法 ☞ 『Windows 2000 のヘルプ』
- ・ ご購入時のパーティション設定は、約半分の領域が C ドライブ (NTFS) に設定されています。残りの領域をドライブとして使用するには、「ディスクの管理」を使用してください。ハードディスクを 2 台搭載したモデルの場合は、1 台目のハードディスクの全領域が C ドライブ (NTFS) に設定されています。2 台目のハードディスクの領域をドライブとして使用するには、「ディスクの管理」を使用してください。
- ・ 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。
 - ☞ ユーザ登録 ☞ 「本節 4 ユーザ登録をする」

● Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『マイクロソフト ウィンドウズ 2000 プロフェッショナル クイックスタートガイド』、または [スタート] - [ヘルプ] をクリックして、『Windows 2000 のヘルプ』をご覧ください。

4 ユーザ登録をする

本製品をお使いになるにあたって、東芝へのユーザ登録およびマイクロソフト社へのユーザ登録は必ず行ってください。登録はそれぞれ行う必要があります。登録を行わないと、今後のサポートを受けられない場合があります。いずれもインターネットで登録する場合は、モデムなどが必要です（本製品は、モデムを搭載しておりません）。インターネットをご利用になるには、プロバイダとの契約が必要です。LANを使ってインターネットに接続する場合は、ネットワーク管理者にご確認ください。

● 東芝へのユーザ登録

同梱されている登録はがき、またはインターネットで登録できます。次のいずれかの方法で行ってください。

インターネットで登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスのページから登録してください。

<http://dynabook.com/tpmc/userj/>

はがきで登録する

本製品に同梱されている登録はがきに必要事項を記入し、送付してください。

● マイクロソフト社へのユーザ登録

Windows XPの場合、インターネットで登録を行います。

Windows 2000の場合は、同梱されている登録はがき、またはインターネットで登録できます。

インターネットで登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のように登録します。

● Windows XP の場合

- ① [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ② [名前] に [regwiz /r] と入力し、[OK] ボタンをクリックする

● Windows 2000 の場合

- ① [スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [はじめに] をクリックする
- ② [今すぐ登録] をクリックする

はがきで登録する (Windows 2000)

本製品に同梱されている登録はがきに必要事項を記入し、送付してください。

2

電源の入れかたと切りかた

本章では、パソコン本体の電源の入れかたと切りかたについて説明します。

1	電源の入れかた	42
2	電源の切りかた	43
3	省電力機能について	44

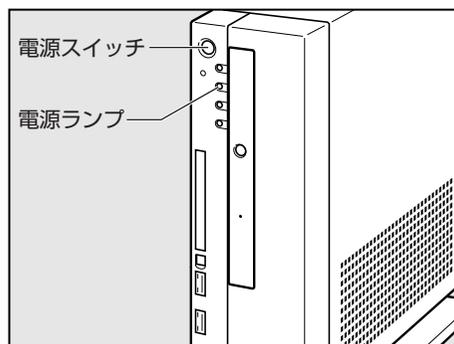
1 電源の入れかた

ここでは、Windows のセットアップを終えた後、電源を入れる方法について説明します。

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れる

2 本体前面の電源スイッチ を押す

電源ランプ（本体前面の緑色のランプ） が点灯します。本製品は電源 ON 時、自動的にセルフテストを実行します。



メモ

- ・パソコン本体が起動すると、自動的にパソコン内部のテストを行います。これをセルフテストといいます。セルフテストによって、エラーが発見される場合があります。
 - ☞ セルフテストでのエラーの対処方法について ⇨ 「付録 3 エラーメッセージ」
- ・リカバリ CD-ROM などの起動可能なメディアをセットしたまま電源を入れると、ハードディスクドライブからシステムが起動しません。
取り出してから、もう 1 度電源を入れてください。

2 電源の切りかた

電源を切る方法はシステムによって異なります。
お使いのシステムを確認のうえ、次の手順に従って電源を切ってください。

● 電源切断時のお願い

- 電源を切ったあと、もう1度電源を入れる場合は、5秒以上たってから入れてください。5秒以上経過していない場合は、誤動作することがあります。
- アプリケーションが起動しているときは、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してから電源を切ってください。
☞ アプリケーションソフトの終了 ☜ 『各アプリケーションソフトに付属の説明書』
- システムの異常などで強制的に電源を切りたい場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。電源が切れます。その際、作成中のデータは消失する可能性があります。
- HDDアクセスランプ 、CD-ROMドライブまたはマルチドライブのアクセスランプ  が消えていることを確認してください。

1 Windows XP の場合

- 1 [スタート] - [終了オプション] をクリックする
- 2 [コンピュータの電源を切る] 画面で [電源を切る] をクリックする
ドメイン参加している場合は、プルダウンメニューから [シャットダウン] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。
- 3 ディスプレイなどの、本体に接続している周辺機器の電源を切る

2 Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] - [シャットダウン] をクリックする
- 2 [Windowsのシャットダウン] 画面で、プルダウンメニューから [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 3 ディスプレイなどの、本体に接続している周辺機器の電源を切る

③ 省電力機能について

① 省電力機能について

省電力機能とは、パソコンのシステム、ハードディスクドライブ、ディスプレイなどを省電力モードにして消費電力を抑制する機能です。

省電力モード中は、次の状態になります。



お願い

・省電力モードでも一定の電力を消費しています。長時間使用しない場合は、1度省電力状態を解除してからWindowsを終了してください。

省電力モード	本体の電源ランプ 	ディスプレイの電源表示ランプ	システム/アプリケーション
システムがスタンバイのとき	緑色に点滅	オレンジ色に点灯	停止する
システムが休止状態のとき	消灯	オレンジ色に点灯	停止する
ディスプレイが省電力モードのとき	緑色に点灯	オレンジ色に点灯	停止しない
ハードディスクドライブが省電力モードのとき	緑色に点灯	緑色に点灯	停止しない

本製品にあらかじめインストールされているWindowsは、省電力機能を備えています。設定されている情報に従って、省電力機能を作動させることができます。ここでは、本製品とWindowsの省電力機能について簡単に紹介します。



メモ

・ディスプレイの電源表示ランプの状態は、ディスプレイにより異なります。

② 省電力モードについて

本製品はシステムの省電力モードとしてスタンバイ、休止状態があります。

● スタンバイ

本製品の消費電力を抑制します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。また、ネットワークに接続していない場合は時間がかかることがあります。

● 休止状態

本製品の消費電力を最小限に抑制します。休止状態に移行する直前の状態をハードディスクに保存します。通常モードへ復帰するとき、休止状態に移行する直前の状態を再現します。通常モードへの復帰は、多少時間がかかります。休止状態に移行させるには、あらかじめ設定が必要です。

システムが省電力モードに移行すると、デバイスの動作は次のようになります。

ディスプレイ	画面表示が消えます。
ハードディスクドライブ	モータの回転を停止します。
LAN接続 (ネットワークへの接続)	切断します。
PCカード	停止します。
USB対応機器	停止します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器	停止します。



メモ

・接続している PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器によっては正常にスタンバイ状態に移行しない、またはスタンバイ状態から通常モードへ復帰しない場合があります。動作に問題が生じる場合は BIOS セットアップの [Power Management Setup] で [ACPI Standby State] を [S1/POS] に設定してください。

☞ BIOS セットアップ ☞ [7章 BIOS セットアップについて]

・3D スクリーンセーバなど、比較的高い負荷でプロセッサを使用するスクリーンセーバを選択した場合、システムが使用中と判断されるため、電源の管理で設定した時間を経過しても省電力モードに移行しない場合があります。

3 省電力モードへの移行 (Windows XP)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

● システムの省電力機能

システムの省電力モードには、スタンバイと休止状態があります。

● スタンバイ

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする
- 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する
初期値は [15 分後] です。
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。
- 4 [OK] ボタンをクリックする



・システムをスタンバイにすると、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムをスタンバイに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

- [スタート] メニューからの実行
 - ① [スタート] - [終了オプション] をクリックする
 - ② [スタンバイ] をクリックする
- 電源スイッチを短く押す
電源スイッチを短く押すことによってスタンバイに移行することができます。
電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。
電源スイッチを押してスタンバイに移行させるには、[電源オプションのプロパティ] の [詳細設定] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] に設定しておいてください。
初期値は [スタンバイ] です。

● 休止状態



メモ

・ 休止状態を実行するには、あらかじめ [電源オプションのプロパティ] の [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックして [OK] ボタンをクリックしてください。初期値では、チェックされています。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする
- 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システム休止状態] で時間を選擇する
初期値は [なし] です。
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選擇してください。
- 4 [OK] ボタンをクリックする



メモ

・ システムを休止状態にすると、LAN 接続は切断され、取り付けられているキーボード、マウス、PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

・ [システム休止状態] が表示されていないときは、[休止状態] タブの [休止状態を有効にする] をチェックして [適用] ボタンをクリックしてください。なお、工場出荷時は [休止状態を有効にする] はチェックされています。

手動でシステムを休止状態に移行させることもできます。
操作方法は次のとおりです。

- [スタート] メニューからの実行
 - ① [スタート] - [終了オプション] をクリックする
 - ② [Shift] キーを押しながら [休止状態] をクリックする
- 電源スイッチを短く押す
電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行することができます。
電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。
電源スイッチを押して休止状態に移行させるには、[電源オプションのプロパティ] の [詳細設定] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [休止状態] に設定しておいてください。
初期値は [スタンバイ] です。

● ディスプレイの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする
- 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選択する
初期値は [なし] です。
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。
- 4 [OK] ボタンをクリックする

● ハードディスクドライブの省電力モード

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする
- 3 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する
初期値は [なし] です。
省電力モードを使用しない場合は、[なし] を選択してください。
- 4 [OK] ボタンをクリックする

4 省電力モードへの移行 (Windows 2000)

設定された時間内にマウスまたはキーボードでの操作がない場合、自動的に省電力モードに移行します。

省電力モードに移行するまでの時間の設定方法は、次のとおりです。

● システムの省電力機能

Windows 2000 のシステムの省電力機能には、スタンバイと休止状態があります。

● スタンバイ

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システムスタンバイ] で時間を選択する

初期値は [15分後] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。



・システムをスタンバイにすると、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムのスタンバイに移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

- [スタート] メニューからの実行
 - ① [スタート] - [シャットダウン] をクリックする
 - ② プルダウンメニューから [スタンバイ] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
- 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによってスタンバイに移行させることができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

電源スイッチを押してスタンバイに移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

● 休止状態



・ 休止状態を実行するには、あらかじめ [電源オプションのプロパティ] の [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックして [OK] ボタンをクリックしてください。初期値では、チェックされています。

1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする

2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [システム休止状態] で時間を選擇する

初期値は [なし] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選擇してください。



・ システムを休止状態にすると、LAN 接続は切断され、取り付けられている PC カード、USB 対応機器、i.LINK (IEEE1394) 対応機器の動作は停止します。

手動でシステムの休止状態に移行させることもできます。

操作方法は次のとおりです。

● [スタート] メニューからの実行

① [スタート] - [シャットダウン] をクリックする

② プルダウンメニューから [休止状態] を選擇し、[OK] ボタンをクリックする

● 電源スイッチを短く押す

電源スイッチを短く押すことによって休止状態に移行させることができます。

電源スイッチを 4 秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので、電源スイッチは短く押してください。

電源スイッチを押して休止状態に移行させるには、[コントロールパネル] の [電源オプション] の [詳細] タブにある [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [休止状態] に設定しておいてください。初期値は [スタンバイ] です。

● ディスプレイの省電力機能

1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする

2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [モニタの電源を切る] で時間を選擇する

初期値は [なし] です。

省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選擇してください。

● ハードディスクドライブの省電力機能

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする
- 2 [電源オプションのプロパティ] の [電源設定] タブの [ハードディスクの電源を切る] で時間を選択する
初期値は [なし] です。
省電力機能を設定しない場合は、[なし] を選択してください。

5 省電力モードからの復帰

● スタンバイからの復帰

システムのスタンバイから復帰するには、次の操作を行ってください。

- 電源スイッチを短く押す
電源スイッチを短く押すことによってスタンバイから復帰させることができます。
電源スイッチを4秒以上押すと電源が切れ、作成中のデータが消失するおそれがありますので電源スイッチは短く押してください。
- キーボード入力をする

ディスプレイまたはハードディスクドライブのスタンバイから復帰するには、次の操作を行ってください。

- マウスを操作する
- キーボード入力をする

● 休止状態からの復帰

休止状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 電源スイッチを押す

3

ハードウェアについて

本章ではパソコン本体の機能や周辺機器、増設メモリなどを取り付ける方法について説明します。注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	キーボード	54
2	CD-ROM ドライブ／マルチドライブ	58
3	PC カード	63
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続	67
5	機器の拡張を行うときは	70
6	本体カバーの取りはずし／取り付け	72
7	増設メモリ	75

1 キーボード

本製品のキーボードは 109A キーボードまたはテンキー付き小型キーボードです。

*ご購入のモデルによって異なります。

109A キーボード

109A キーボードは、106 日本語 (A01) キーボード (Ctrl+ 英数) に Windows をより便利に使うウィンドウズキー、アプリケーションキーを追加したキーボードです。

F (ファンクション) キー (F1~F12)
各アプリケーションソフトにより、いろいろな機能が割り当てられます。

Esc (エスケープ) キー
操作の取り消しなどに使用します。

Tab (タブ) キー
項目を移動するときなどに使用します。

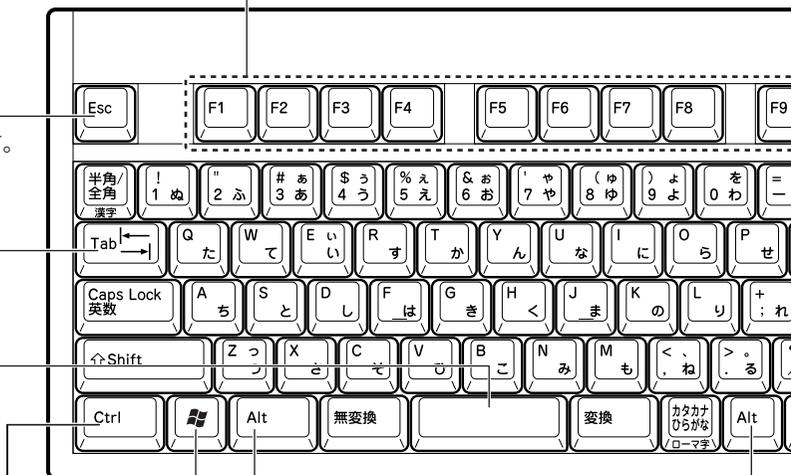
Space (スペース) キー
空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するときを使用します。

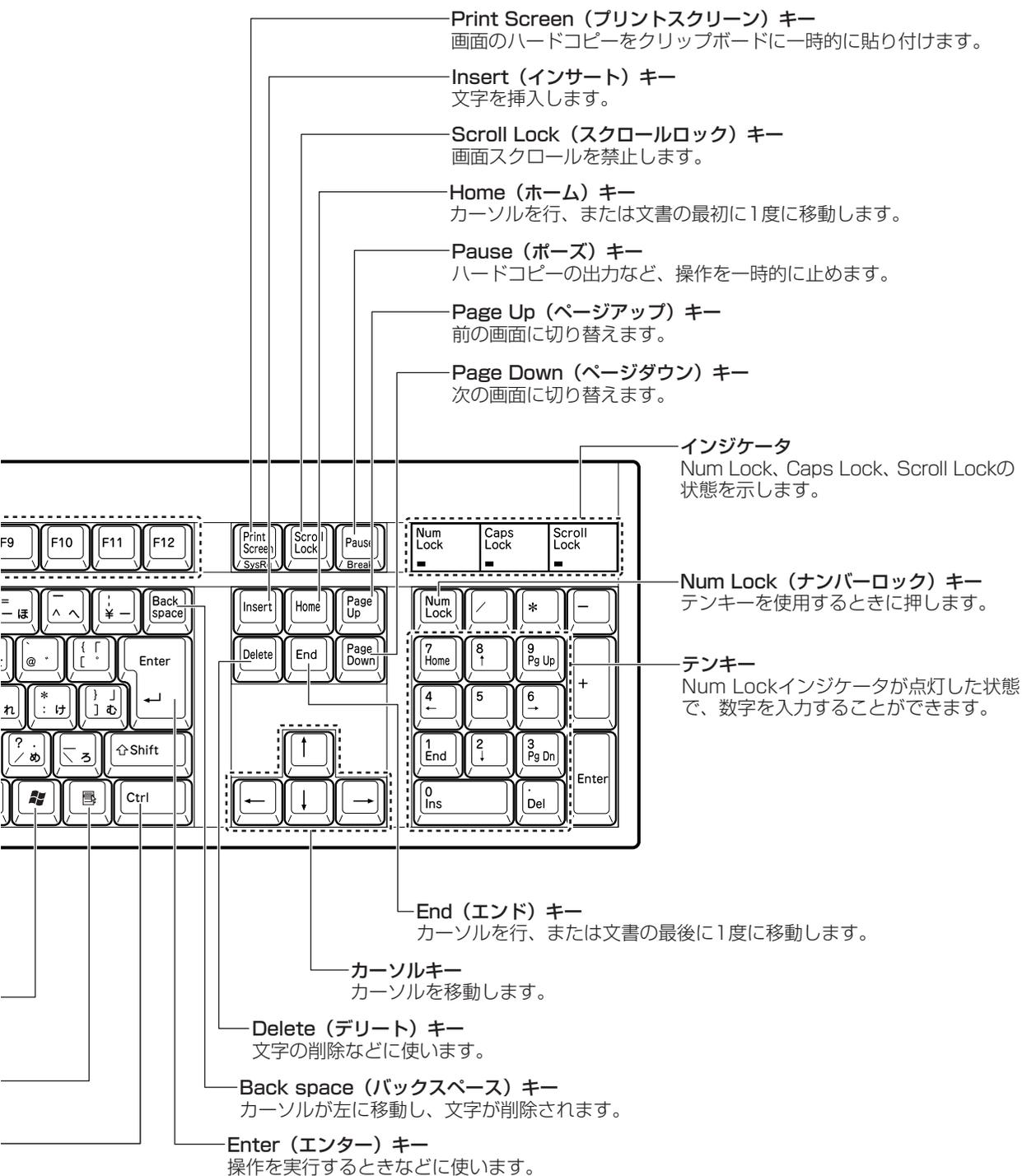
Alt (オルト) キー
他のキーと組み合わせて使用します (アプリケーションごとに機能が異なります)。

ウィンドウズキー
他のキーとの組み合わせで、ショートカットとして使用できます。

アプリケーションキー
マウスの右ボタンをクリックすることと同様に動作します。

Ctrl (コントロール) キー
他のキーと組み合わせて使用します (アプリケーションごとに機能が異なります)。





● テンキー付き小型キーボード

テンキー付き小型キーボードは、106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）にWindowsをより便利に使うウィンドウズキー、アプリケーションキーを追加したキーボードです。

F (ファンクション) キー (F1~F12)

各アプリケーションソフトにより、いろいろな機能が割り当てられます。

インジケータ

Num Lock、Caps Lock、Scroll Lockの状態を示します。

Esc (エスケープ) キー

操作の取り消しなどに使用します。

Tab (タブ) キー

項目を移動するときなどに使用します。

Space (スペース) キー

空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するときを使用します。

Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使用します（アプリケーションごとに機能が異なります）。

Fnキー

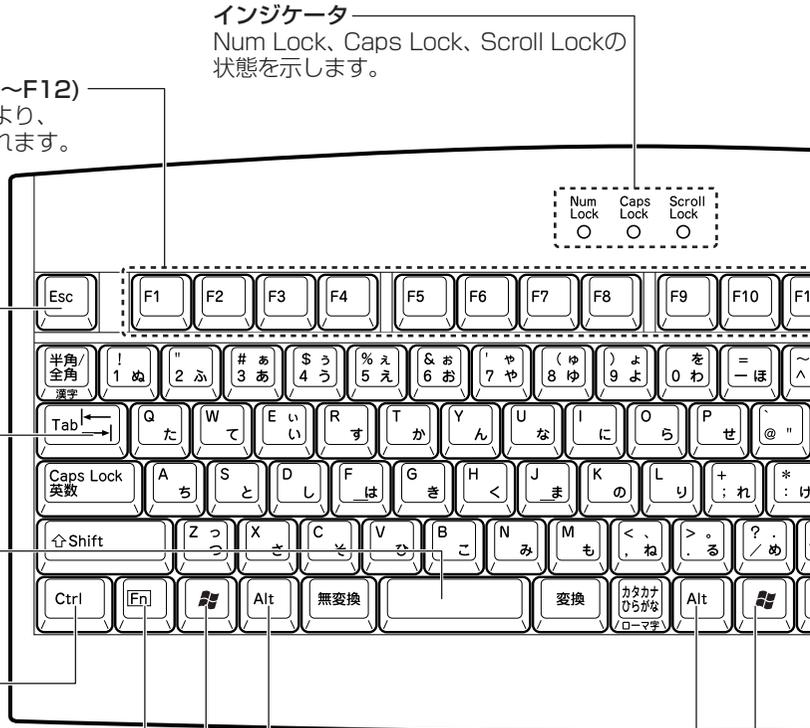
カーソルキーとの組み合わせにより特殊機能を実行するときに使います。

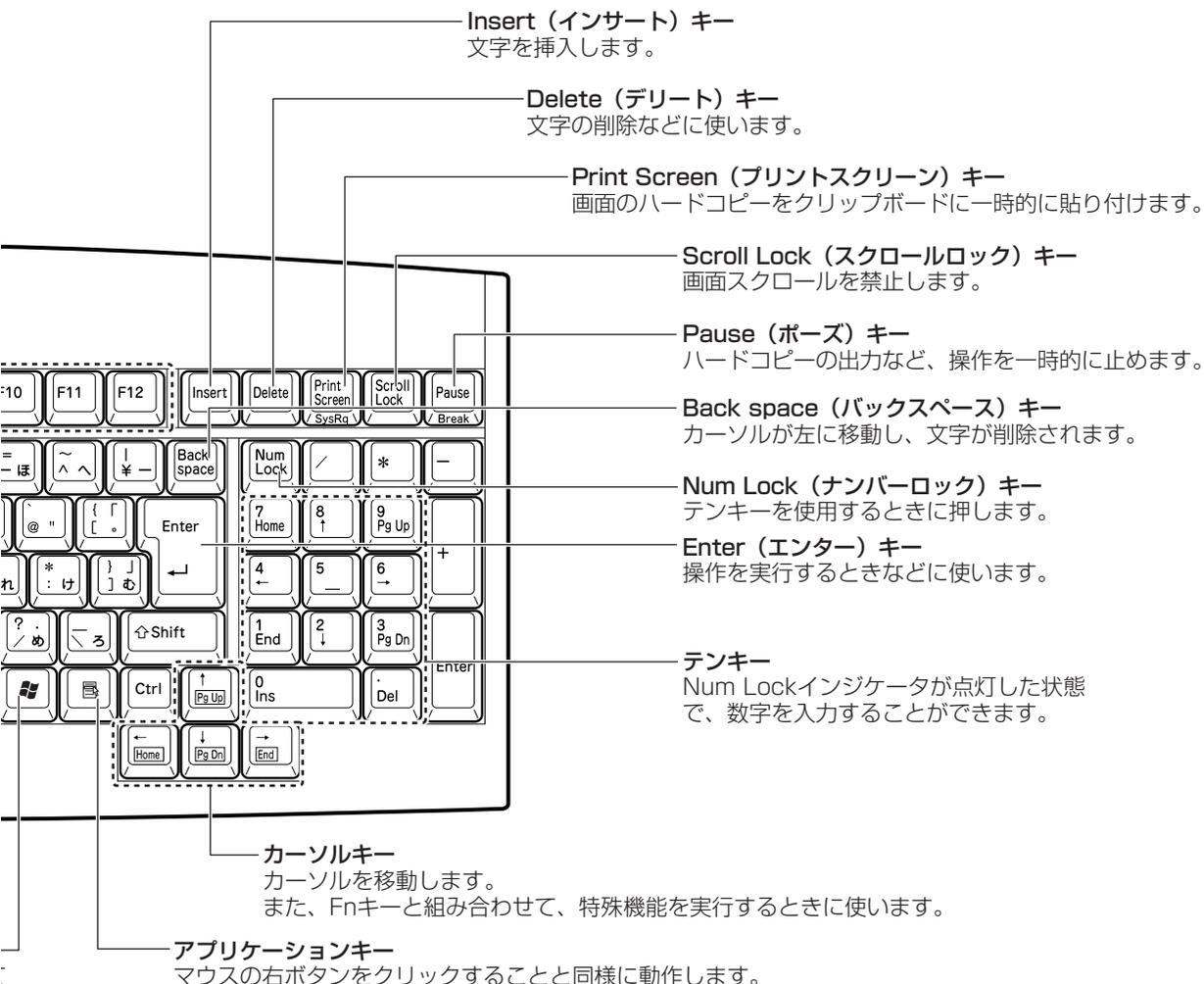
Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使用します（アプリケーションごとに機能が異なります）。

ウィンドウズキー

他のキーとの組み合わせで、ショートカットとして使用できます。





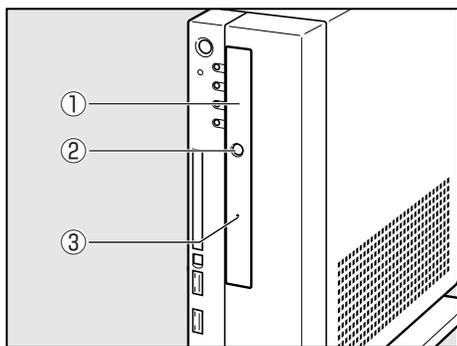
● Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
[Fn] + [PgUp]	前の画面に切り替えます。
[Fn] + [PgDn]	次の画面に切り替えます。
[Fn] + [Home]	カーソルを表、または文書の最初に1度に移動します。
[Fn] + [End]	カーソルを行、または文書の最後に1度に移動します。

2 CD-ROMドライブ/マルチドライブ

本製品にはCD-ROMドライブまたはマルチドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブはCDの読み出しができますが、マルチドライブはCDの読み出しに加え、DVDの読み出しやCD-R、CD-RWへの書き込みも可能です。内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルにより、異なります。

ドライブ部分拡大図（本体正面）



① ディスクトレイ

CD/DVDをセットする部分です。ディスクのセットや取り出しは、イジェクトボタンで行います。

② イジェクトボタン

ディスクのセットや取り出しのときに押します。

③ イジェクトホール

ディスクを強制的に出すときに使用します。通常は使用しません。



お願い

- ・CD/DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・アクセスランプ  が点灯中は、イジェクトボタンは押さないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・CD-ROMドライブまたはマルチドライブを使用しないときは、必ずCD/DVDを取り出しておいてください。
- ・外側を切り欠いたCD/DVDなど正常な円形ではないCD/DVDや、変形したCD/DVD、かたよった位置にラベルを貼ったCD/DVDは使用しないでください。異常振動の発生や故障の原因となります。
- ・市販のレンズクリーナは使用しないでください。CD-ROMドライブまたはマルチドライブの故障の原因となります。

● 使用できるCD

本製品では12cm、8cmのCDを使用できます。読み出しできるCDは次の種類です。

- ① 音楽用CD
- ② フォトCD
- ③ CD-ROM

使用するシステムに適合するISO9660フォーマットのもの

- ④ CDエクストラ
- ⑤ CD-R
- ⑥ CD-RW



メモ

- ・ISO9660フォーマットとは、パソコンのシステム(OS)や機種が異なっても共通に利用することができるCD-ROMのフォーマットであり、ISO(国際標準化機構)が1988年に決めました。
- ・CDの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

また、マルチドライブモデルで書き込みできる CD は、次の種類です。

① CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。CD-R の書き込み速度は最大 24 倍速です。24 倍速で書き込むためには 24 倍速書き込みに対応した CD-R メディアをご使用ください。

② CD-RW

CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。1 / 2 / 4 倍速対応（マルチスピード）CD-RW メディアを使用した場合は最大 4 倍速です。High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合は最大 10 倍速です。Ultra Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合は最大 24 倍速です。

● CD-R、CD-RW に書き込む

マルチドライブモデルの場合、CD-R、CD-RW にデータを書き込むことができます。書き込みを行う際は、アプリケーション CD-ROM から「Drag'n Drop CD + DVD」をインストールしてください。本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外の CD-R、CD-RW ライティングソフトウェアは動作保証しておりません。Windows 標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。CD-R、CD-RW に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態によっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

本製品に搭載しているマルチドライブには書き込みエラーを防ぐバッファアンダーランエラー防止機能を内蔵していますが、電源切断やドライブへのショックなどの本体異常や、記録メディアの状態によっては、処理が正常に行えず、エラーとなる場合があります。

書き込みに失敗した CD-R の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-R、CD-RW に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



メモ

・ CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できません。なお、CD-RW は消去すると再利用できます。

● 書き込む前に

- 次のメーカーの CD-R、CD-RW をご使用になることをおすすめします。
CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、
日立マクセル (株)、富士写真フイルム (株)、ソニー (株)
CD-RW (マルチスピード、High-Speed) : 三菱化学 (株)、(株) リコー
(ウルTRASピード、Ultra Speed) : 三菱化学 (株)
- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバ
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- LAN を経由しての書き込みは行わないでください。LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。
- フロッピーディスクドライブ、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスクドライブ以外の記憶装置にあるデータの書き込みは行わないでください。USB 接続のハードディスクドライブなどの周辺機器にあるデータは、いったん本製品のハードディスクドライブに保存してから書き込みを行ってください。

● 書き込み／削除を行うときは

- マウスを動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- ユーザの切り替えを行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、ディスプレイ、i.LINK (IEEE1394) 対応機器
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、必ずデータ書き込み終了後に、データが正しく書き込まれたことを確認してください。

● 使用できる DVD

マルチドライブモデルで読み出しできる DVD は、次の種類です。

- ① DVD-ROM
- ② DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- ③ DVD-R
- ④ DVD-RW
- ⑤ DVD-RAM

DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出しする面を変更するときは、1度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類 (2.6GB/4.7GB/5.2GB/9.4GB)	本製品の対応
カートリッジなし	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)	○

DVD-Videoを観る

マルチドライブモデルでDVD-Videoを再生する際は、「InterVideo WinDVD」をアプリケーションCD-ROMからインストールしてください。



お願い

- ・DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。
- ・DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- ・使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- ・DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- ・その他の注意については、インストール後に作成される「readme1st.txt」をご覧ください。「readme1st.txt」は、「C:\Program Files\InterVideo\WinDVD4」フォルダ内にあります。

CD / DVDのセットと取り出し



注意 ・長時間CD-ROMドライブまたはマルチドライブを使用した直後にCD / DVDを取り出す場合は、ディスクトレイの金属部分に触れないでください。ディスクトレイの金属部分が熱くなっている場合があります。

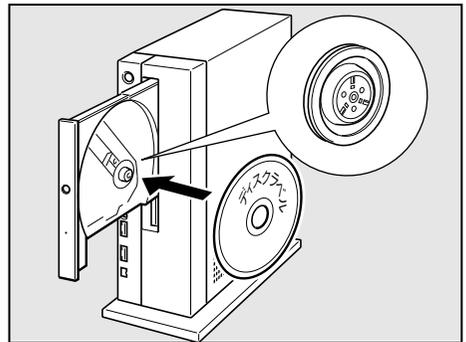


お願い

- ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。CD / DVD のデータや CD-ROM ドライブまたはマルチドライブが壊れるおそれがあります。
- ・CD / DVD のセットと取り出しは、電源 ON 時に行ってください。電源 OFF 時にイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイの出し入れはできません。また、イジェクトボタンは、アクセスランプ  が消灯している状態で押してください。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのイジェクトホールを先の細い、丈夫なもの（例えばクリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。
- ・CD / DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・CD-ROM ドライブまたはマルチドライブを使用しないときは、必ず CD / DVD を取り出しておいてください。
- ・外側を切り欠いた CD / DVD など正常な円形ではない CD / DVD や、変形した CD / DVD、かたよった位置にラベルを貼った CD / DVD は使用しないでください。異常振動の発生や故障の原因となります。

● CD / DVD のセット

- 1** CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが出てきます。
- 2** ディスクトレイを引き出す
CD / DVD をのせる面がすべて出るまで引き出します。
- 3** CD / DVD ディスクラベルを手前にして、穴の部分をディスクトレイ中央部分に合わせ、セットする
CD / DVD をセットするときは、ディスクトレイを強く押しすぎないでください。
- 4** ディスクトレイを押し戻す



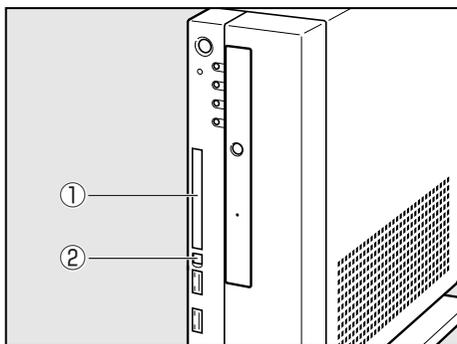
● CD / DVD の取り出し

- 1** CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが出てきます。
- 2** ディスクトレイを引き出す
CD / DVD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。
- 3** CD / DVD の両端をそっと持ち、手前に引いて取り出す
- 4** ディスクトレイを押し戻す

3 PC カード

本製品には、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応（CardBus 対応含む）PC カード（別売り）を取り付けることができます。

部分拡大図（本体正面）



① PC カードスロット

PC カードを挿入します。

② イジェクトボタン

PC カードの取りはずしを行うときに押します。

● PC カードを使用する前に

- 使用できる PC カードのタイプは、TYPE II です。

PC カードの例を次にあげます。

- ・ SCSI アダプタカード
- ・ スマートメディアアダプタカード
- ・ フラッシュメモリカード
- ・ CardBus 対応カード

詳細について ⇨ 「PC カードに付属の説明書」

- PC Card Standard に準拠していない PC カードは使用できません。故障や不具合が発生するおそれがあります。
- PC カードにはシールを貼らないでください。シールが貼られていると、カードの取り付けや取りはずしが正常にできない場合があります。また、故障の原因となることがあります。



お願い

- ・ ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。電源を入れたまま作業を行うと、PC カードが故障するおそれがあります。
- ・ PC カードを使用中は、省電力機能を使用しないでください。スタンバイ／休止状態への移行、通常モードへの復帰が正常に行えない場合があります。
- ・ システム起動時に PC カードスロットに PC カードを挿入している場合、PC カードを認識しなかったり、起動に時間がかかることがあります。PC カードを認識しない場合は、PC カードのイジェクトボタンを押し、PC カードを取りはずした後、もう 1 度挿入し直してください。
- ・ スタンバイ／休止状態の時に PC カードの抜き差しを行わないでください。スタンバイ／休止状態からの復帰後に PC カードを正常に認識しない場合があります。
- ・ PC カードを取りはずす際は、PC カードを使用停止状態にしてください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
- ・ 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。



メモ

・市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。長時間の連続使用は避けてください。

・ホットインサージョン

パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け／取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによってはこの機能に対応していない場合があります。

・PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンド再生を行った場合、次の現象が発生することがあります。

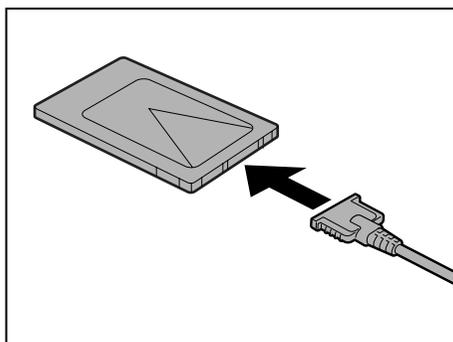
- ・通信回線の速度が遅くなる
- ・通信回線が切断される
- ・サウンド再生時に音飛びが発生する

● 取り付け

1 ホットインサージョンに対応していない PC カードを取り付ける場合は、パソコン本体の電源を切る

2 PC カードにケーブルを付ける

SCSI カードなど、ケーブルを接続する必要があるカードの場合は、この作業を行ってください。

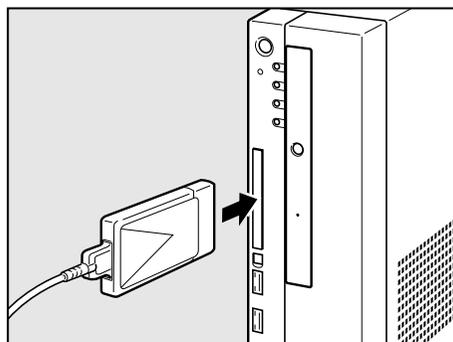


お願い

・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

3 PC カードの表面を右側に向け、PC カードを挿入する

カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押ししてください。



カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

📖 カードの接続および環境の設定方法 ⇄ 『PC カードに付属の説明書』

● 取りはずし



注意

・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びる場合があります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから取りはずしてください。



お願い

- ・PCカードを取りはずす際は、PCカードを使用停止状態にしてください。使用停止せずにPCカードを取りはずすと、システムが致命的影響を受ける場合があります。
- ・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行ってください。

1 PCカードの使用を停止する

Windows XP の場合

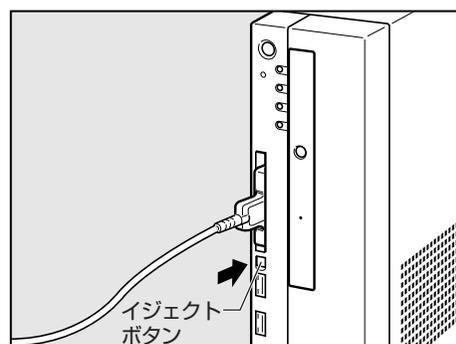
- ① 通知領域にある [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXXX (取りはずす PC カード名) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 通知領域に「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、 ボタンをクリックする

Windows 2000 の場合

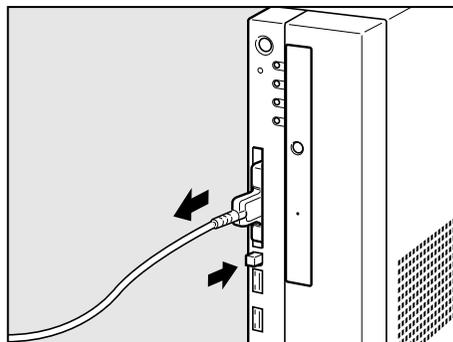
- ① タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す

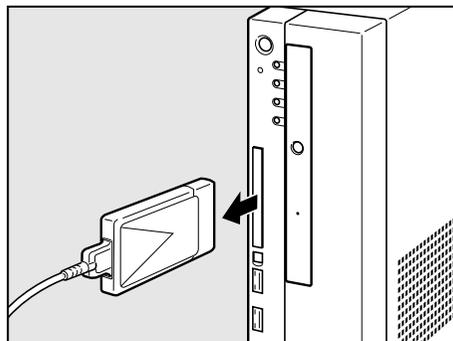
イジェクトボタンが出てきます。



3 もう1度イジェクトボタンを押す
カードが少し出てきます。



4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



お願い

・カードを引き抜くときは、ケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

4 i.LINK (IEEE1394) 対応機器の接続

本製品では、i.LINK (IEEE1394) コネクタ (以降、i.LINK コネクタとよびます) に i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (以降、i.LINK 対応機器とよびます) を接続できます。i.LINK 対応機器には次のようなものがあげられます。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応マルチドライブ など



お願い

- ・ i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ・ ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・ 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- ・ 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- ・ i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしやパソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- ・ i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

● i.LINK 対応機器のご使用について

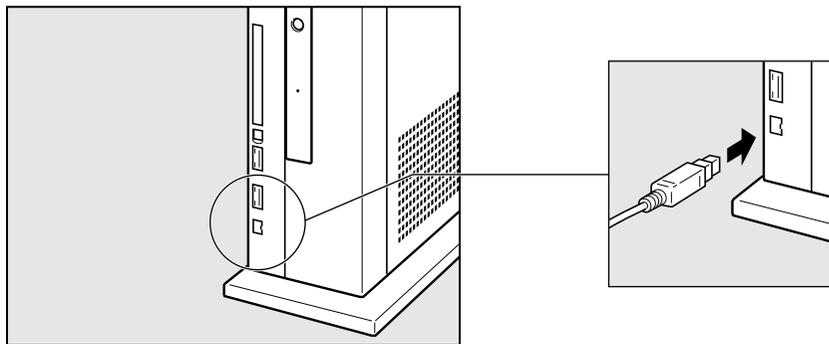
i.LINK 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ (データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ) のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラ等を使用し、データ通信を行っている最中に他の周辺機器の取り付け/取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。周辺機器の取り付け/取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。

● 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタ  に差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。

本体前面



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

● 取りはずし

● Windows XP の場合

- 1 タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、 ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを取りはずす
パソコン本体からケーブルを取りはずすときは、i.LINK 対応機器以外の機器のケーブルに気をつけてください。

 i.LINK 対応機器からのケーブルの取りはずしについて
⇒ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』



・i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1～3 は必要ありません。

● Windows 2000 の場合

- 1** タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- 2** 取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- 3** 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4** パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く
パソコン本体からケーブルを取りはずすときは、i.LINK 対応機器以外の機器のケーブルに気をつけてください。
☞ i.LINK 対応機器からのケーブルの取りはずしについて
⇒ 『i.LINK 対応機器に付属の説明書』



メモ

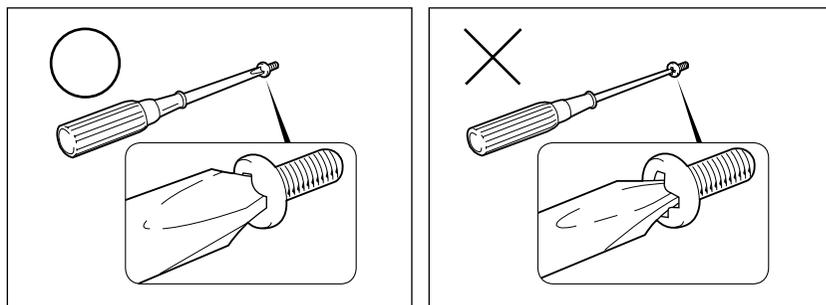
・i.LINK 対応機器の種類によっては、手順 1～3 は必要ありません。

5 機器の拡張を行うときは

機器の拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のあるかた（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われたかた）を対象としております。システム拡張の経験のないかた、難しいと思われるかたはお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

- 湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行ってください。
- 温度範囲は 10～35℃、湿度範囲は 20～80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。
- 必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行ってください。
- 注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行ってください。
- 作業は指示された手順で行ってください。
- 取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。
- 静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等など）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。
- 必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け、取りはずし作業を行ってください。
- 作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。
- ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。
- 異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- コネクタの接続、増設メモリの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。
ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



- 本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。
- 本体の電源コードの接続は、① AC アダプタへの接続、②アース線をアース端子に接続、③プラグの電源コンセントへの接続の順に行ってください。電源からはずす場合は、①プラグ、②アース端子、③ AC アダプタの順に行ってください。



注意 ・この章で説明されている「6 本体カバーの取りはずし／取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切りケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。

・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところがありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋の使用をおすすめします。



お願い

- ・本体カバーをはずして作業する場合、本体の電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ - (マイナス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

☞ 「7章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

6 本体カバーの取りはずし／取り付け



注意 ・本体シャーシのアルミ板金などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。



・オプションの装着などを行う場合以外は、本体のカバーを開けないでください。故障の原因となる場合があります。

システムを拡張する場合、取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずしかた、取り付けかたをまとめて説明します。

それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

● 本体カバーの取りはずし

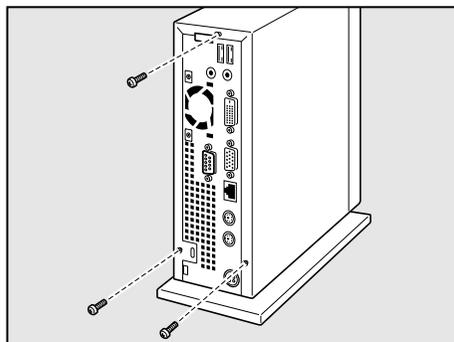
- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから①電源コードのプラグ、②アース線、③ AC アダプタを順に取りはずす
- 5 パソコン本体に接続されているすべてのケーブルを取りはずす



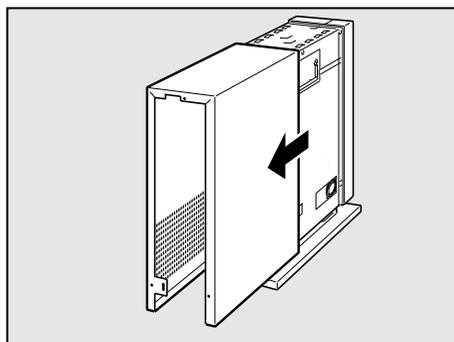
・電源を切っただけでは、メインボードは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差し等を行うと、故障の原因となります。

必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

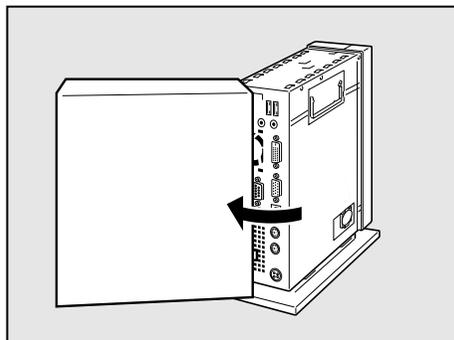
6 本体背面のネジ3本をはずす



7 本体カバーを後方へずらす



8 カバーの片側を手前に引くようにして取りはずす

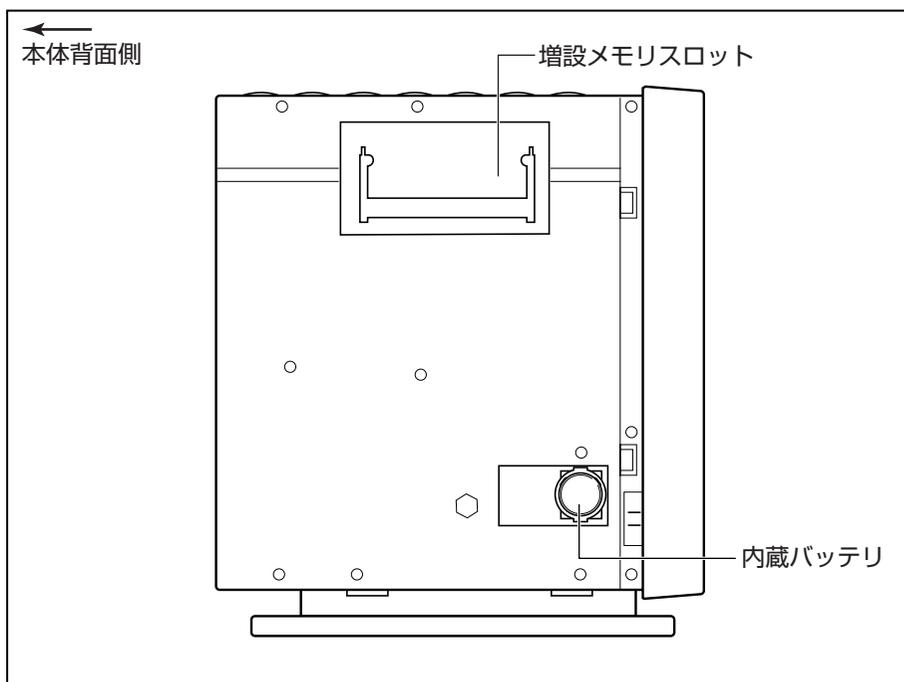


● 本体カバーを取りはずしたところ



注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

● 左側面



増設メモリスロット、内蔵バッテリーがユーザ作業エリアです。

☞ メモリの増設について ⇨ 「本章 7 増設メモリ」

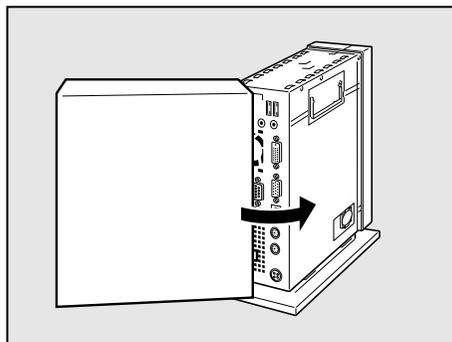
☞ 内蔵バッテリーの交換について ⇨ 「4章 2 内蔵バッテリーの交換」

● 右側面

右側面はユーザ作業エリアではありません。

● 本体カバーの取り付け

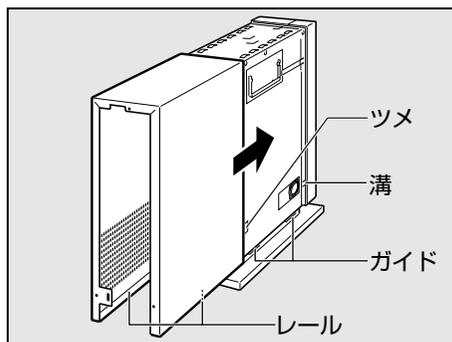
- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体の斜め後方から、本体カバーの片側をのせ、もう一方の側を回すようにして取り付ける



4 本体カバーを前方にスライドさせる

本体カバーの左右のレールを本体下部のガイドにのるように取り付けてください。

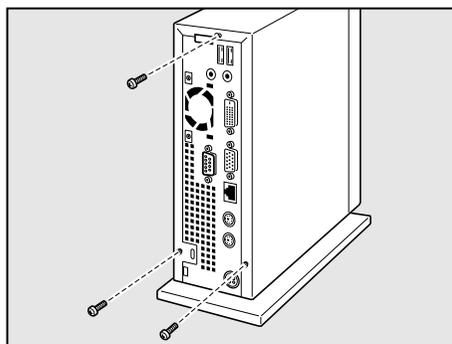
また、本体カバーの左右のツメを本体左右の溝に合わせてください。



・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

お願い

- 5 本体背面にネジ 3 本を取り付け、固定する



7 増設メモリ



お願い

- ・必ず『増設メモリに付属の説明書』をお読みになったうえで作業を行ってください。
- ・使用できる増設メモリは1枚です。
- ・増設メモリの取り付けが難しいと思われる場合は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本製品は、増設メモリ（別売り）を取り付けることができます。
取り付け後の最大メモリ容量はご購入のモデルにより異なります。
本装置には次の増設メモリが取り付けられます。

- ・増設メモリカード 128MB（タイプX） 型番：PAME128X
- ・増設メモリカード 256MB（タイプX） 型番：PAME256X
- ・増設メモリカード 512MB（タイプX） 型番：PAME512X



お願い

- ・メモリを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・ECC 機能はサポートしていません。

● 取り付け

増設メモリの取り付け方法について説明します。



お願い

- ・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する

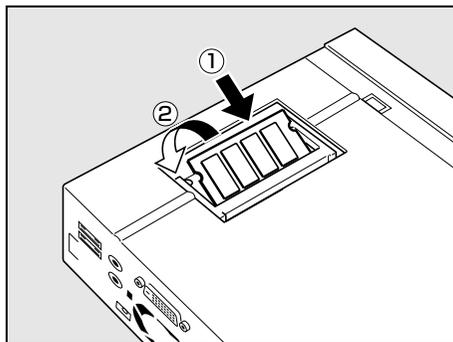
2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

3 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。

フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



お願い

- ・増設メモリの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。
- ・増設メモリが完全に挿入されていない状態で使用すると、異常動作したり、増設メモリまたは増設メモリスロットを破損する原因になります。

4 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

以上で増設メモリの取り付けは完了です。

増設したメモリが認識されているか、次の「メモリ容量の確認」で確認してください。

● **メモリ容量の確認**

Windows を起動し、「東芝 PC 診断ツール」を使用してメモリ容量の確認を行います。

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] または [プログラム] - [TOSHIBA] - [ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- 3 [メモリ] の数値を確認する

次のような場合、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう 1 度正しく増設メモリの取り付けを行ってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない

● 取りはずし

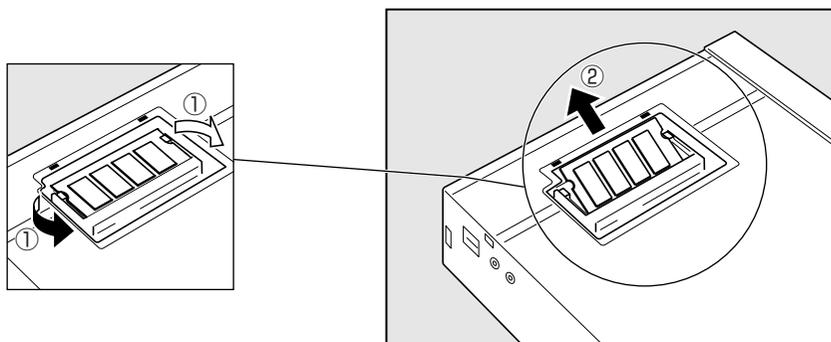
増設メモリの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。



お願い

・増設メモリは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリを破壊する原因となります。増設メモリの取り付け／取りはずしを行う場合は、静電気を逃がしてから作業を行ってください。接地された手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

- 1 「本章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」
- 3 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



4 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

増設メモリを取りはずした後、メモリ容量が正しく認識されているか、本体を起動して確認してください。

☞ メモリ容量を確認する ☞ 「本節 - メモリ容量の確認」

4

パソコンの取り扱い

日常のパソコンの取り扱いや消耗品について説明しています。

- 1** 日常の取り扱いについて 80
- 2** 内蔵バッテリーの交換 84
- 3** 廃棄・譲渡について 86

1 日常の取り扱いについて

● パソコン本体の取り扱い

携帯電話、無線機など電波を発生する機器を近くで使用した場合、動作に影響を与えることがあります。

その場合は、電波を発生する機器を本体から離してご使用ください。

● 連続運転について

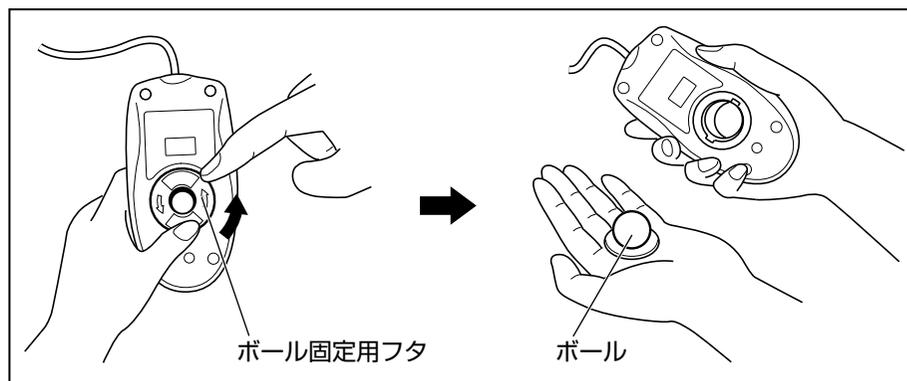
長時間の（24 時間を超えるような）連続運転をしないでください。

パソコン本体を使わないときは、パソコン本体の電源を必ず切ってください。

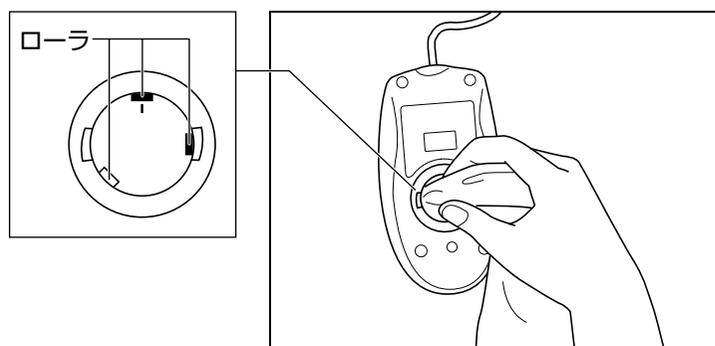
長時間使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

● 日常のお手入れと保管・運搬

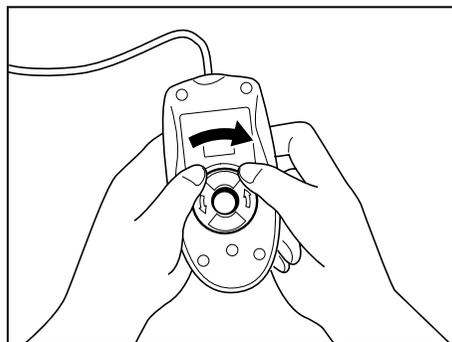
- 本体の汚れは、やわらかい布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水を含ませた布で軽く拭き取ってください（ディスプレイ表示画面を除く）。
- ベンジンやシンナー、その他の薬品類を使うと変形または変色することがあります。また殺虫剤などをかけないようにしてください。
- 梱包箱を保管しておくとう送などに使用でき便利です。
- 移動時に落とす、ぶつけるなどの強いショックを与えないようにしてください。誤動作したり、故障することがあります。
- CD-ROM ドライブ、マルチドライブは、市販のクリーナを使用しないでください。
- 電源ケーブルのプラグを長期間 AC コンセントに接続したままにすると、プラグやコンセントにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取ってください。
- キーボードのキーの下やすきまに入ったほこりやゴミなどは、掃除機などで吸い出してください。
- マウスを長時間使用していると、ホコリなどがボールに付着し正常なマウスの動作を妨げ、動作不良の原因となることがあります。マウスのお手入れは、次の手順で行ってください。
 - ① パソコン本体の電源を切ってください。
 - ② マウス本体の裏面にあるボール固定用のフタを、矢印方向に回転させてはずし、ボールを取り出します（ネジは、絶対にはずさないでください）。



- ③ マウス内部のローラなどに付着した異物は、乾いた布で取り除いてください。



- ④ ボールを、水で洗います（中性洗剤を使用する場合はよくすすぎます）。
⑤ 乾いた布でボールの水分を拭き取り、十分乾燥させてからマウス本体に取り付けます。
⑥ ボール固定用のフタを、矢印方向に回転させて取り付けます。フタは、カチッと音がするまで回転させてください。



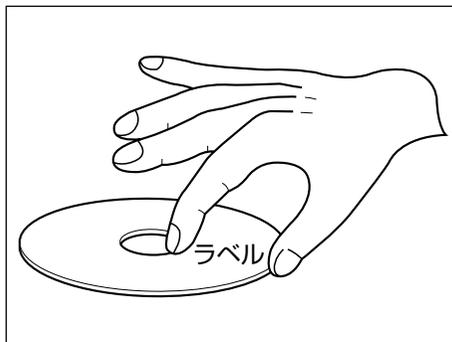
・ ボール固定用のフタ以外は、絶対に分解しないでください。

お願い

● CD / DVD の取り扱い

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保証いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の溝か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。



- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

● 妨害電波・電圧について

本装置は VCCI (情報処理装置等電波障害自主規制協議会) 基準に基づくクラス A 情報技術装置です。テレビ、ラジオへの影響がある場合は次のことを試みてください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える。
- テレビ、ラジオに対する本装置の方向を変える。
- テレビ、ラジオから離す。
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う。
- 受信機に屋外アンテナを使う。
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える。
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れてみる。

以上のような対策を行ってもまったく効果がない場合は、お近くのサービスステーションへご相談ください。

VCCI マークのついていない周辺機器を接続すると、テレビ、ラジオなどに影響が出ることがありますのでご注意ください。

● 修理・サービスについて

保証期間中および保証期間後の保守サービスについては、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。お近くのサービスステーションまたはお買いあげの販売店にご相談ください。

② 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約3年です（使用環境や保管状態により、3年に満たされない場合があります）。

バッテリーが寿命に達すると、次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行ってください。

CMOS Battery LOW



注意 ・本製品の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。

取り扱いを誤ると、発熱、破裂、発火、中毒、やけどなどの危険があります。

- ・充電、電極除去、分解をしない
- ・100℃以上の加熱、焼却をしない
- ・電池は水にぬらさない
- ・子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
- ・電池の内部の液がもれたときは、液にふれない

リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。



お願い

・電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。

☞ 「7章 BIOS セットアップについて」

・本製品に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

1 「3章 5 機器の拡張を行うときは」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「3章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」

3 本体を静かに横にして置く



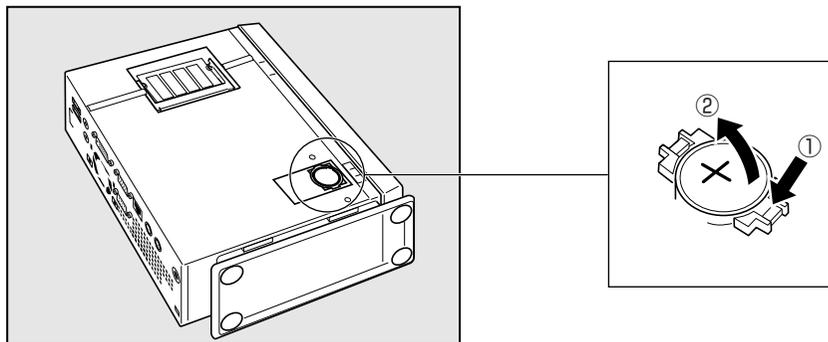
お願い

・本体を転倒させないでください。

衝撃や振動により、本体が故障するおそれがあります。

4 バッテリーの位置を確認し、バッテリーとケースのすき間にマイナスドライバを差し込んで①、バッテリーを取りはずす②

バッテリーが本体内部に入り込まないように取りはずしてください。



5 新しいバッテリーの (+) 側を上にして取り付ける

バッテリーが本体内部に入り込まないように取り付けてください。



お願い

・バッテリーの極性 (+、-) をまちがわないように取り付けてください。
+側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

6 本体カバーを取り付ける

☞ 「3章 6 本体カバーの取りはずし／取り付け」



お願い

・再起動後、BIOS セットアップを起動し、再設定してください。
☞ BIOS セットアップについて ⇨ 「7章 BIOS セットアップについて」

3 廃棄・譲渡について

本製品を廃棄するときは、企業と家庭では廃棄方法が異なります。次の要領にて処理してください。なお、詳細については、「dynabook.com」(<http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>) をご覧ください。

(本製品は、プリント基板の製造に使用するはんだに鉛が含まれています。)

● 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を破棄するときは、産業廃棄物として扱われます。

東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施しています。

使用済みになった東芝製品については、東芝パソコンリサイクルセンターの利用をお願いします。

● 問い合わせ先

東芝パソコンリサイクルセンター

〒230-0034 神奈川県横浜市鶴見区寛政町 20-1

株式会社テルム内

電話番号 : 045-510-0255

受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、当社指定の休日を除く)

FAX : 045-506-7983 (受付時間: 24 時間)

● 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

2003 年 10 月より個人・家庭からの使用済みパソコンも回収・再資源化が義務付けられています。本製品を廃棄するときは、一般廃棄物として扱われます。

使用済みになった東芝製品については、東芝 dynabook リサイクルセンターをご利用いただけますようお願いいたします。

● パソコン回収受付窓口

東芝 dynabook リサイクルセンター

● 問い合わせ先

東芝 dynabook リサイクルセンター

電話番号 : 043-303-0200

受付時間 : 10:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、当社指定の休日を除く)

FAX : 043-303-0202 (24 時間受付)

ホームページ / <http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm> (24 時間受付)

● パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク上に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆「削除」操作を行う
- ◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ソフトで初期化（フォーマット）する
- ◆付属のリカバリ CD-ROM を使い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているだけの状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、パソコンのハードディスク上の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることをおすすめします。なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認をする必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。

☞ 「本節 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

● ハードディスクの内容をすべて消去する

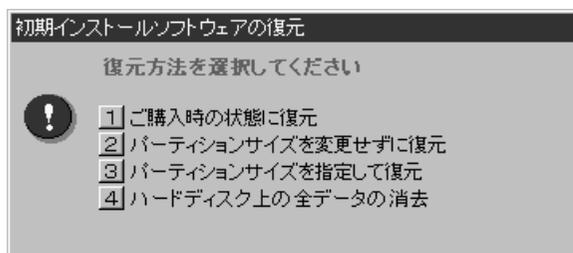
パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできないので、注意してください。

ハードディスクの内容をすべて消去するには、次のように行ってください。

1 「リカバリ CD-ROM Disk 1」をセットして、パソコンの電源を切る

2 パソコンを起動する

「復元方法を選択してください」というメッセージが表示されます。



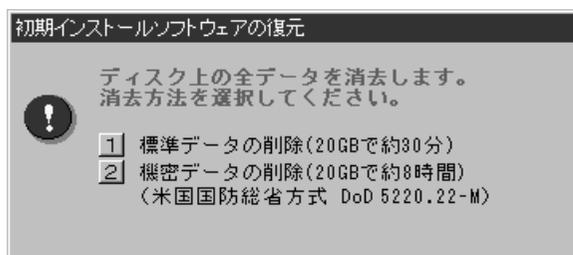
3 [4]キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

4 [Y]キーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。

処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。



5 目的にあわせて、[1]または [2]キーを押す

[1]キーを押すと、ハードディスクのすべてのセクタに、固定値で上書きします。

[2]キーを押すと、ハードディスクのすべてのセクタに、類推されにくい乱数を使って複数回上書きします。1 よりも時間はかかりますが、データを読み取られる危険性がより低くなります。

● お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄する場合は、「パソコンお客様ご登録係」まで連絡のうえ、登録の削除の手続きをしてください。

パソコンお客様ご登録係

TEL / 043-278-5997

受付時間 / 9 : 00 ~ 17 : 00 (土・日、祝日、特別休日を除く)

5

再セットアップ

本製品に同梱されているリカバリ CD-ROM を使って、システムやアプリケーションをご購入時の状態に戻すことができます。本章では、リカバリ CD-ROM の使いかたについて説明します。

1	再セットアップとは	90
2	標準システムを復元する	91

1 再セットアップとは

システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

● 再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

- Cドライブをフォーマットしてしまった
- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない
- パソコンが正しく動作しない など

● 再セットアップする前に

「6章 困ったときは」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧のうえ、解決できないときに再セットアップしてください。

再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディア（フロッピーディスクやMO、CD-R/RW など）にバックアップをとってください。

また、ハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

● リカバリ CD-ROM とは

本製品にはリカバリ CD-ROM が同梱されています。

リカバリ CD-ROM は何らかの障害によって、ハードディスクの内容が壊れてしまった場合やシステムが正常に動作しなくなってしまった場合にシステムを復元するために使用します。

☞ 「本章 2 標準システムを復元する」

また、アプリケーション CD-ROM も同梱されています。アプリケーション CD-ROM は、本製品に添付されているアプリケーションが入っています。

添付されているアプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法についてはアプリケーション CD-ROM を CD-ROM ドライブまたはマルチドライブにセットし、表示される初期画面をご覧ください。



お願い

・リカバリ CD-ROM / アプリケーション CD-ROM は絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

2 標準システムを復元する

本製品にあらかじめインストールされている Windows やアプリケーションを復元し、ご購入時の状態に戻します。

● 必要なもの

次のものを使用します。

- リカバリ CD-ROM
- 取扱説明書（本書）

Office 搭載モデルの場合は、上記に加えて次のものを使用します。

同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」パッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式

- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタートガイド

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法の詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタートガイド』を確認してください。

● 操作手順



お願い

・復元する際にハードディスクのフォーマットを行います。ハードディスクの内容はすべて削除されますので、必要なデータがある場合には、あらかじめフロッピーディスクなどに保存してください。

ハードウェア構成を変更している場合には、本パソコンをご購入時の状態に戻してから、システムの復元を行ってください。

・BIOS セットアップの [Advanced CMOS Setup] で [1st Boot Device]、[2nd Boot Device]、[3rd Boot Device] の設定がご購入時の状態と異なる場合、リカバリ CD-ROM から起動されません。必ずご購入時の設定に戻してから、システムの復元を行ってください。

☞ BIOS セットアップについて ⇨ 「7章 BIOS セットアップについて」



メモ

・ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。標準システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

・「ご購入時の状態に復元する」を選択して復元した場合、約半分の領域を C ドライブ (NTFS) に設定します。残りの領域は未フォーマット状態になります。「ディスクの管理」等でフォーマットしてから使用してください。

ハードディスク 2 台搭載モデルで「ご購入時の状態に復元する」を選択して復元した場合は、1 台目のハードディスクの全領域を C ドライブ (NTFS) に設定します。2 台目のハードディスクの内容は変更されません。

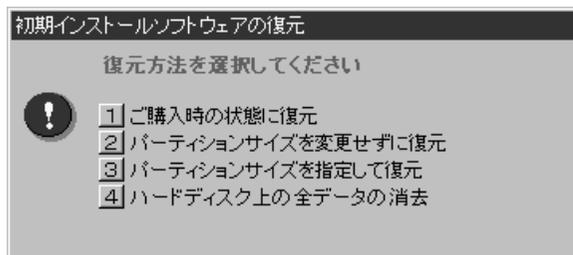
1 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

2 「リカバリ CD-ROM Disk 1」 をセットする

3 パソコンを再起動する

「復元方法を選択してください」というメッセージが表示されます。



4 ご購入時の状態に復元する場合は[1]キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は[2]キーを、パーティション設定を指定する場合は[3]キーを押す

ご購入時のパーティション設定で復元するには、[1]キーを押してください（推奨）。ハードディスクを1台搭載したモデルでは、約半分の領域をCドライブ（NTFS）に設定し、残りの領域を未フォーマット状態に設定します。ハードディスクを2台搭載したモデルでは、1台目のハードディスクの全領域をCドライブ（NTFS）に設定します。2台目のハードディスクの内容は変更されません。

パーティションとは、1台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在のパーティション設定を変更しないときは[2]キー、変更するときは[3]キーを押してください。[4]キーを押すと、ハードディスク上のデータはすべて消失します。詳細は、「4章 3- ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。

「SPARE DISK TOOL」を使用する場合は[1]キーを押してください。

警告メッセージが表示されます。

● [1]キーを押した場合：

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。手順5に進んでください。

● [2]キーを押した場合：

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。手順5に進んでください。

● [3]キーを押した場合：

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

① [Y]キーを押す

[パーティションサイズの指定] 画面が表示されます。

② [←] [→]キーを使ってパーティションのサイズを指定する

ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

③ **[Enter]**キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順6に進んでください。

5 復元を行う場合は**[Y]**キーを、行わない場合は**[N]**キーを押す

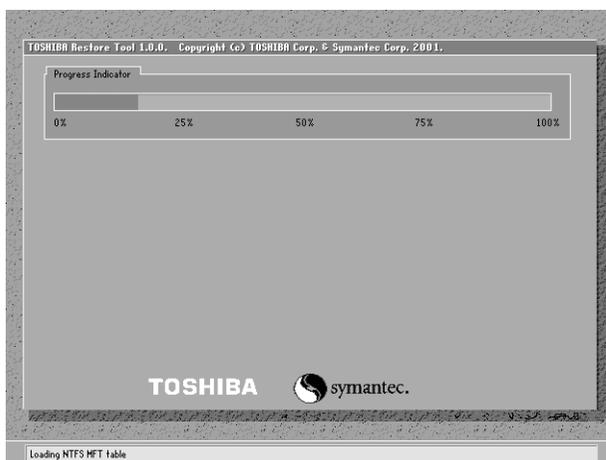
[Y]キーを押すと、「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

[N]キーを押すと、手順3の画面に戻ります。

6 復元を続行する場合は**[Y]**キーを、復元を中止する場合は**[N]**キーを押す

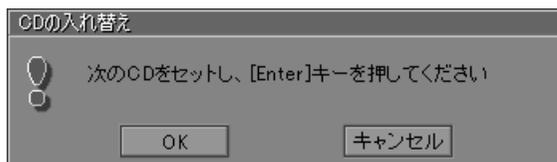
復元中は、次の画面が表示されます。

[N]キーを押すと、手順3の画面に戻ります。



7 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合、CDを入れ替え、**[Enter]**キーを押してください。処理が続きます。



復元の進行状況を示すグラフ表示が、100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度目に100%に達し、次の画面が表示されたら完了です。

初期インストールソフトウェアの復元

「初期インストールソフトウェアの復元」は完了しました。

CD/DVD-ROMやフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押して、マシンを再起動してください。

8 CDを取り出し、何かキーを押す

システムが再起動します。



お願い

・CDをセットしたままキーを押すと、再度システムの復元が始まります。必ずCDを取り出してからキーを押してください。

9 Windowsのセットアップを行う

☞ Windowsのセットアップについて ⇨ 「1章 4 初めて電源を入れるときは」

● Office搭載モデルの場合

Microsoft Office^(*)は、以上の手順では復元されません。

Windowsのセットアップが終了した後に、アプリケーションのパッケージに同梱されている説明書を参照のうえ、復元してください。

(*1) Microsoft® Office Personal Edition 2003

6

困ったときは

本章では、困ったときの対処方法を説明します。
操作中、うまく動作しないときにお読みください。

1	困ったときのQ & A	96
----------	-------------------	----

1 困ったときのQ&A

本製品を操作しようとしたときに、思ったとおりに操作できなかつたり、何をしたらよいかわからないときがあります。すぐに、故障だ！とあわてる前に、この章をお読みください。

各システムのコマンドを使用しているときにエラーメッセージが表示された場合は、『各システムに付属の説明書』をご覧ください。

アプリケーションソフトについては、それぞれの『アプリケーションソフトに付属の説明書』をお読みください。

● 電源が入らない	96
● エラーメッセージが表示される	97
● 画面の表示がおかしい	97
● キーボードのキーを押しても希望の文字が入力されない	98
● マウスの操作ができない	99
● アプリケーションソフトが使えない	99
● ハードディスクドライブが使えない	99
● CD-ROM ドライブ／マルチドライブが使えない	100
● PC カードが使えない	101
● USB 対応機器が使えない	102
● i.LINK (IEEE1394) 対応機器が使えない	103
● サウンドが鳴らない	104
● ブザーが鳴る	104
● 印刷できない	104
● テレビ、ラジオに障害が出る	105
● 省電力機能が正常に動作しない	105
● 異常や故障の場合	105
● どうしてもわからない場合	106

● 電源が入らない

状況 ● 本体の電源が入らない

確認 電源コードと AC アダプタは正しく接続されていますか？

対処 ● 電源コードと AC アダプタを正しく接続してください。
☞ 「1 章 3-6 電源への接続」

確認 電源ランプ  は点灯していますか？

対処 ● 電源スイッチを押してください。

確認 電源コンセントに電源が通じていますか？

対処 ● 電源の通じている電源コンセントに差ししてください。

● エラーメッセージが表示される

状況 ● 起動時にエラーメッセージが表示される



対処

- 電源を切ってから5秒以上待って電源を入れてください。
- 「付録3 エラーメッセージ」をご覧ください。メッセージに対応した処置を行ってください。

状況 ● 「CMOS Battery LOW」というエラーメッセージが表示される



対処

- 内蔵バッテリーを交換してください。
- ☞ 「4章2 内蔵バッテリーの交換」

状況 ● アプリケーションソフト使用時にエラーメッセージが表示される



対処

- 『アプリケーションソフトに付属の説明書』をお読みください。

● 画面の表示がおかしい

状況 ● 画面に何も映らない

確認

パソコン本体およびディスプレイの電源は入っていますか？



対処

- 電源を入れてください。

確認

ディスプレイ用電源コードは接続されていますか？



対処

- 電源をいったん切ってから、コンセントに差し込んでください。

確認

ディスプレイ用信号ケーブルは正しく接続されていますか？



対処

- 信号ケーブルの固定用ネジにゆるみがないように正しく接続してください。

確認

表示自動停止機能が働いていませんか？



対処

- [Shift] キーを押したり、マウスを動かしたり、電源スイッチを押してください。

確認

USB 対応機器を接続していますか？



対処

- 接続されているUSB 対応機器によっては、USB 対応機器の電源を入れた後、パソコン本体の電源を入れると、パソコン本体が起動しない場合があります。パソコン本体の電源を入れてからUSB 対応機器の電源を入れてください。

状況 ● 画面の表示が乱れる、あるいは画面のサイズや表示位置等が異常である

確認 ディスプレイの輝度、コントラスト等の調整および、各調整スイッチでの調整は正しくできていますか？



● 輝度、コントラストおよび各調整スイッチを用いて、正しく調整してください。

☞ 『ディスプレイに付属の説明書』

確認 ディスプレイの交換または解像度、リフレッシュレートの変更を行いましたか？



● ご使用のディスプレイの仕様に合った解像度、リフレッシュレートに設定してください。

また、ディスプレイの仕様に合った解像度、リフレッシュレートに設定しても正しく表示が行えない場合は、ディスプレイドライバとユーティリティの再インストールを行ってください。

● キーボードのキーを押しても希望の文字が入力されない

状況 ● キーボードから入力できない

確認 キーボードケーブルのプラグをマウスコネクタに接続していませんか？



● キーボードケーブルのプラグをキーボードコネクタに接続してください。

☞ キーボードの接続 ⇨ 「1章 3-5 キーボードの接続」

状況 ● どのキーを押しても反応しない



● **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押してください。

● リセットスイッチを押してください。

● 電源を切って、しばらくしてから電源を入れ直してください。

状況 ● 希望の文字が入力できない



● キーボードの文字キーは、文字ロックの状態によって、入力される文字が異なります。お使いの『日本語入力システムに付属の説明書』を参照して、文字ロックを希望の状態にしてください。

● マウスの操作ができない

状況 ● マウスを操作しても反応しない

確認 マウスのプラグをキーボードコネクタに接続していませんか？



対処 ● マウスのプラグをマウスコネクタに接続してください。
 📖 マウスの接続 ⇨ 「1章 3-4 マウスの接続」

● アプリケーションソフトが使えない

状況 ● アプリケーションソフトが思うように動かない

確認 システム構成は正しく設定されていますか？



対処 ● 『アプリケーションソフトに付属の説明書』を読んで、指示があればシステム構成を変更してください。

状況 ● アプリケーションソフトが動かない

確認 そのアプリケーションソフトはシステムに対応していますか？



対処 ● システムに対応していないアプリケーションソフトは使えません。
 お使いのシステムに対応しているアプリケーションソフトをお買い求めください。

● ハードディスクドライブが使えない

状況 ● データの読み／書きができない



対処 ● 故障しているおそれがあるので、お使いの機種を確認後、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションへご連絡ください。

● CD-ROM ドライブ／マルチドライブが使えない

*内蔵されているドライブの種類は、ご購入のモデルによって異なります。

状況 ● CD-ROM ドライブまたはマルチドライブにアクセスできない

確認 CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのディスクトレイはきちんとしまっていますか？



対処 ● CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのディスクトレイを正しく格納してください。

確認 CD / DVD がきちんとセットされていますか？



対処 ● CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのディスクトレイを引き出し、ラベルが付いている方を右にして、CD / DVD をセットしてください。

確認 CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのディスクトレイに異物がありますか？



対処 ● 何かはさまっていたら取り除いてください。

確認 CD / DVD が汚れていませんか？



対処 ● 乾燥した清潔な布で拭いてください。それでも汚れが落ちなければ、水か中性洗剤で湿らせた布で、拭き取ってください。

確認 対応していないフォーマットの CD / DVD をセットしていませんか？



- CD-ROM ドライブまたはマルチドライブが対応しているフォーマットの CD / DVD をセットしてください。
▶ 「3章 2 CD-ROM ドライブ／マルチドライブ」
- CD-ROM ドライブで DVD を読み出すことはできません。

状況 ● CD / DVD が取り出せない

確認 電源が切れていませんか？



対処 ● 電源を入れてから、CD-ROM ドライブまたはマルチドライブのイジェクトボタンを押してください。

● PCカードが使えない

状況 ● PCカードの挿入が認識されない

確認 PCカードが奥までしっかり差し込まれていますか？



対処

● 奥までしっかり差し込んでください。

☞ PCカードの取り付け ⇨ 「3章 3 PCカード」

状況 ● MS-DOS上で使用できない



対処

● 本製品はWindows専用モデルです。MS-DOS上でPCカードをご利用いただくためのドライバは提供しておりません。

状況 ● デバイスとして認識されるが使用できない

確認 IRQが不足していませんか？



対処

● 使用しないデバイスを使用不可にしてください。

< Windows XPの場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [システム] をクリックする
- ③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ④ 使用しないデバイスの 田 をクリックする
- ⑤ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
- ⑥ メッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリックする
- ⑦ [デバイスマネージャ] を閉じる
- ⑧ [システムのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

< Windows 2000の場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ③ 使用しないデバイスの 田 をクリックする
- ④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
- ⑤ メッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [デバイスマネージャ] を閉じる
- ⑦ [システムのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

● USB 対応機器が使えない

状況 ● USB 対応機器が使えない

確認 ケーブルは正しく接続されていますか？



● ケーブルがパソコン本体の USB コネクタに正しく接続されているかどうか確認してください。

🔍 USB コネクタ ⇨ 「1 章 2 各部の名称と機能」

確認 システム (OS) は USB 対応機器を認識していますか？



● 何らかの原因で、システム (OS) が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。Windows を再起動してください。

確認 ドライバは正しくインストールされていますか？



● 次の手順でドライバをインストールしてください。

< Windows XP の場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする
ウィザードが起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

< Windows 2000 の場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
ウィザードが起動します。
- ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

● i.LINK (IEEE 1394) 対応機器が使えない

状況 ● i.LINK (IEEE 1394) 対応機器が使えない

確認 ケーブルは正しく接続されていますか？



● ケーブルが、パソコン本体と i.LINK 対応機器に正しく接続されているかどうか確認してください。

☞ 接続について ☞ 「3章 4 i.LINK (IEEE 1394) 対応機器の接続」

確認 ドライバは正しくインストールされていますか？



● 次の手順でドライバをインストールしてください。

< Windows XP の場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする
ウィザードが起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

< Windows 2000 の場合 >

- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
[新しいハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

確認 i.LINK 対応機器の電源は入っていますか？



● i.LINK 対応機器の電源を入れてください。

確認 システム (OS) は、i.LINK 対応機器を認識していますか？



● 何らかの原因で、システム (OS) が正しく i.LINK 対応機器を認識していない可能性があります。Windows を再起動してください。

● サウンドが鳴らない

状況 ● 音楽用 CD や WAV ファイルを再生しても、音が出ない

確認 ボリュームが下がっていませんか？

対処 ● タスクトレイの音量アイコンをダブルクリックして、音量を確認してください。

確認 スピーカが接続されていますか？

対処 ● 本体背面の LINE OUT 端子にスピーカ（別売り）を接続してください。

● ブザーが鳴る

状況 ● システム起動時にブザーが鳴る

確認 本製品のオプション以外の増設メモリを取り付けていませんか？

対処 ● 本製品のオプションの増設メモリを使用してください。
☞ 「3章 7 増設メモリ」

● 印刷できない

状況 ● 本体に接続したプリンタが動作しない

確認 プリンタの電源は入っていますか？

対処 ● プリンタの電源を入れてください。

確認 接続ケーブルや接続コネクタが正しく接続されていますか？

対処 ● 正しく接続してください。

状況 ● 画面上の表示と異なった印刷物が出てきたり、うまく印刷できない

確認 アプリケーションソフト上でのプリンタの設定条件は、ご使用のプリンタの設定に合っていますか？

対処 ● アプリケーションソフト上、または Windows のプリンタ設定で正しく設定し直してください。
☞ 『アプリケーションソフトに付属の説明書』

● テレビ、ラジオに障害が出る

状況 ● テレビ、ラジオの調子がおかしい

確認 テレビ、ラジオの近くにパソコン本体やディスプレイを置いていませんか？

対処

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変えてください。
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体やディスプレイの方向を変えてください。
- テレビ、ラジオから離してください。
- テレビ、ラジオの電源コンセントとは別の電源コンセントを使ってください。
- 電源コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れてください。
- 受信機に屋外アンテナを使ってください。
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替えてください。

● 省電力機能が正常に動作しない

状況 ● 省電力機能が正常に動作しない

確認 市販のPCカード、USB対応機器、i.LINK対応機器を使用していますか？

対処

- 接続しているPCカード、USB対応機器、i.LINK対応機器の種類によっては、省電力機能が正常に動作しない場合があります。
BIOSセットアップを起動し、[Power Management Setup] の [ACPI Standby State] を [S1/POS] に設定してください。
BIOSセットアップ ⇨ 「7章 BIOSセットアップについて」
- Windows上の省電力機能を使用しないでください。

● 異常や故障の場合

状況 ● 異常な臭いや過熱に気がついた

対処

- 電源を切り、電源コンセントから電源プラグを抜き、DCジャックからACアダプタのプラグを取りはずしてください。
- 次のところに連絡してください。
 - ・ お買い上げの販売店
 それでもわからない場合は、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、お近くのサービスステーションへご連絡ください。
 - ・ 使用している機器の名称
 - ・ ご購入年月日
 - ・ 現在の状態
 できるだけ詳細にご連絡ください。

● どうしてもわからない場合

操作できない原因がどうしてもわからない場合は、巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項をご確認のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにご連絡ください。

お近くのサービスステーションについては、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧ください。

7

BIOS セットアップについて

本章では、BIOS セットアッププログラムの使いかたと機能について説明します。BIOS セットアッププログラムを使って、パソコン本体のシステム構成の設定や、パスワードの登録／削除などができます。

1	BIOS セットアップとは	108
2	BIOS を工場出荷時設定に戻すには	112
3	Standard CMOS Setup の詳細	114
4	Advanced CMOS Setup の詳細	116
5	Power Management Setup の詳細 ...	118
6	PCI/Plug and Play Setup の詳細	122
7	Peripheral Setup の詳細	123
8	Auto-Detect Hard Disks	124
9	Password の設定	125

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パスワードやハードディスク、周辺機器の使いかたなどを本体に設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップで設定された情報は、CMOS-RAM と呼ばれる特殊なメモリに保存され、電源を切っても設定した内容が消失しないように内蔵バッテリーで保持されます。メモリの増設の変更をしない限り、1 度 BIOS セットアップを行えば以降は必要ありません。ただし、内蔵バッテリーが消耗すると BIOS セットアップは既定値に戻りますので、設定した内容はメモをとるなどして忘れないようにしてください。

なお、BIOS セットアップの内容は出荷時期により多少異なる場合があります。



メモ

・ BIOS セットアップ画面は英語表示のみです。日本語での、項目/説明の表示はありません。

1 BIOS セットアップの起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に **[Delete]** キーを押し続ける

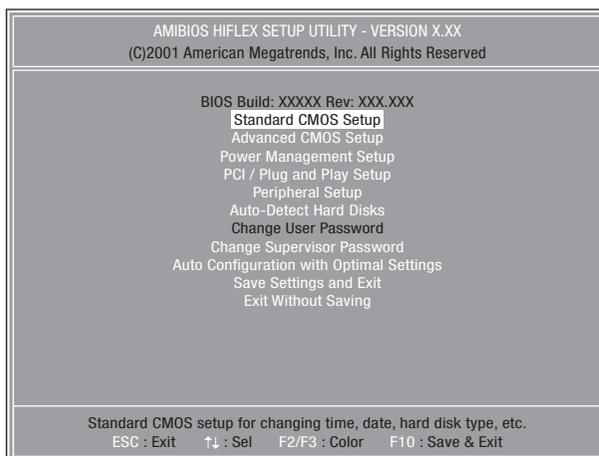
次のような画面が表示されたら **[Delete]** キーを離してください。



お願い

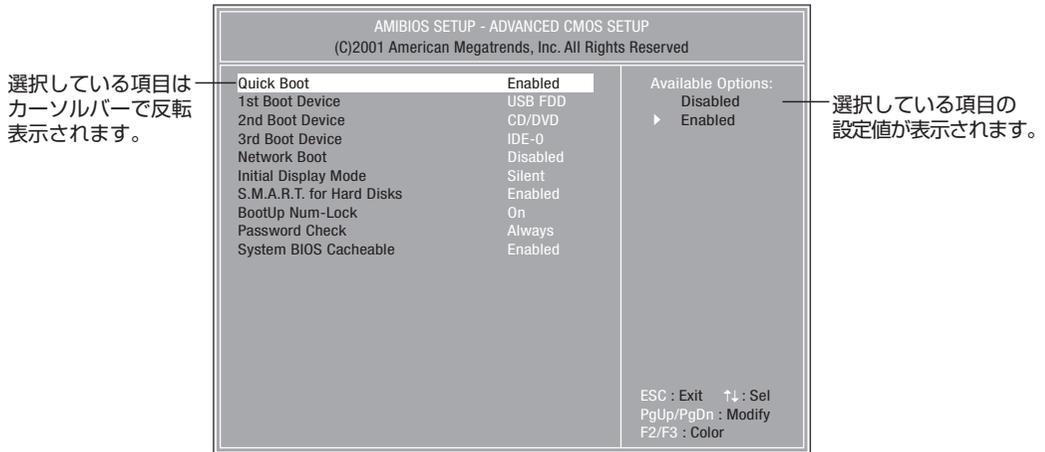
・ **[Delete]** キーの入力が受け付けられるのは、パソコンの電源を入れてから数秒間です。この時間内に **[Delete]** キーを押さないと、システムが起動します。

BIOS セットアップが起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、上記の手順 1 をやり直してください。



2 BIOS セットアップの操作方法

● BIOS セットアップ画面について



● 使用するキーについて

BIOS セットアップでは、マウスが使用できないため、キーボード上のキーで、メニューや項目の移動、値の入力などを行います。

ここでは、BIOS セットアップで主に使用するキーについて説明します。

● キー

1 つ前の項目に移動します。

● キー

1 つ先の項目に移動します。

● Page Up キー (テンキーの キー)

項目の選択値を 1 つ前の値に変更します。



・  +  キーを押しても無効になります。

メモ

● Page Down キー (テンキーの キー)

項目の選択値を 1 つ後の値に変更します。

● キー

現在の設定を保存し (CMOS-RAM に書き込み)、BIOS セットアップを終了して、システムを起動します。

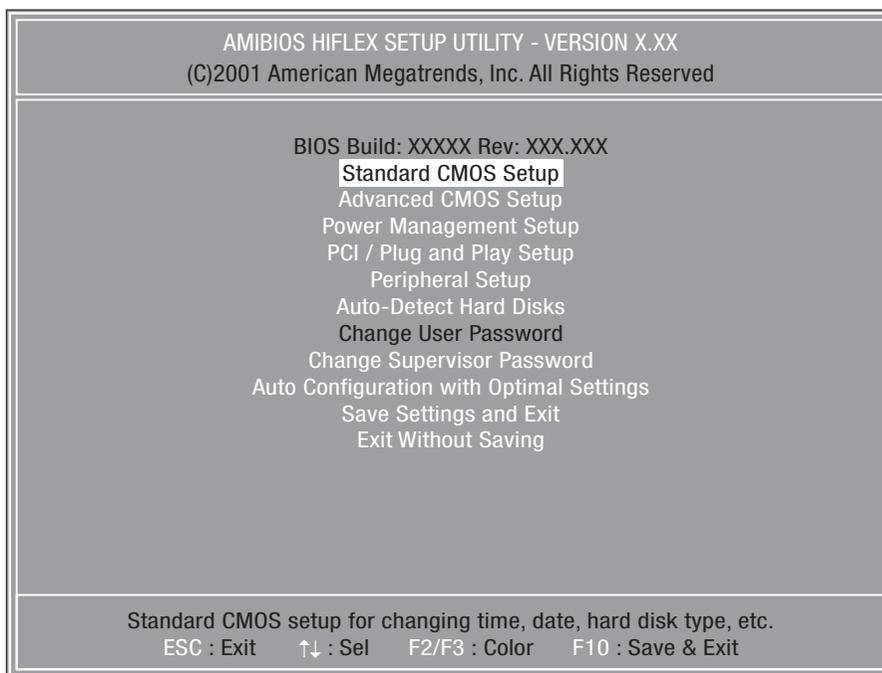
メインメニュー画面で、 キーを押すと「Save current settings and exit (Y/N) ? Y」というメッセージが表示されます。設定を保存して終了する場合は  キーを、保存しないでセットアップを続ける場合は  キーを押して  キーを押します。

● [Esc] キー

メインメニュー画面で [Esc] キーを押すと「Quit without saving (Y/N) ? N」というメッセージが表示されます。設定を保存しないで終了する場合には [Y] キーを、終了しないでセットアップを続ける場合は [N] キーを押して [Enter] キーを押します。サブメニュー中では、1 つ前の状態に戻したり、1 つ前の画面を表示します。

3 BIOS セットアップの内容

メインメニューは次のような画面です。



BIOS セットアップには次のサブメニューがあります。

● Standard CMOS Setup

日付や時刻などを設定します。

● Advanced CMOS Setup

起動するドライブや、ディスプレイの表示などを設定します。

● Power Management Setup

省電力などの設定をします。

● PCI / Plug and Play Setup

プラグアンドプレイの設定をします。

● Peripheral Setup

周辺機器の設定をします。

● Auto-Detect Hard Disks

接続されているドライブを検出します。



・ドライブが接続されると [Standard CMOS Setup] の項目にある [Type] が [Auto] 以外の接続されているドライブに変わります。

● Change User Password

ユーザパスワードの設定・変更をします。

管理者パスワード (Supervisor Password) が設定されている場合のみ有効です。

● Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定・変更をします。

● Auto Configuration with Optimal Settings

設定を初期状態に戻します。

● Save Settings and Exit

設定した内容を CMOS に保存し、セットアップを終了します。

● Exit Without Saving

変更内容を CMOS に保存しないでセットアップを終了します。

2 BIOS を工場出荷時設定に戻すには

1 BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップの起動方法 ⇨ 「本章 1-1 BIOS セットアップの起動方法」

2 メインメニューより [Auto Configuration with Optimal Settings] を選択し、[Enter] キーを押す

「Load high performance settings (Y/N) ? N」 というメッセージが表示されます。

3 [Y] キーを押す

設定値を戻さずにセットアップを続ける場合は、[N] キーを押します。

4 [Enter] キーを押す

5 [F10] キーを押す

「Save current settings and exit (Y/N) ? Y」 というメッセージが表示されます。

6 [Y] が選択されていることを確認し、[Enter] キーを押す

変更した設定を保存して終了します。

工場出荷時の設定値

Standard CMOS Setup

項目	工場出荷時の設定値	
	Type	32Bit Mode
Pri Master	Auto	On
Pri Slave	Auto	On
Sec Master	Auto	On
Sec Slave	Not Installed	—

Advanced CMOS Setup

項目	工場出荷時の設定値
Quick Boot	Enabled
1st Boot Device	USB FDD
2nd Boot Device	CD/DVD
3rd Boot Device	IDE-0
Network Boot	Disabled
Initial Display Mode	Silent
S.M.A.R.T. for Hard Disks	Enabled
BootUp Num-Lock	On
Password Check	Always
System BIOS Cacheable	Enabled

● Power Management Setup

項目	工場出荷時の設定値
Thermal Control Mode	Performance
HDD Acoustic	Enabled
ACPI Standby State	S3/STR
PS/2 Keyboard power on function	Disabled
Power Management/APM	Enabled
Video Power Down Mode	Suspend
Hard Disk Power Down Mode	Suspend
Suspend Time Out (Minute)	Disabled
After AC/Power Failure	Stays Off
Wake up Function	Disabled
Resume On RTC Alarm	Disabled
RTC Alarm Date	15
RTC Alarm Hour	12
RTC Alarm Minute	30
RTC Alarm Second	30

● PCI/Plug and Play Setup

項目	工場出荷時の設定値
Plug and Play Aware O/S	No
PCI Latency Timer (PCI Clocks)	64

● Peripheral Setup

項目	工場出荷時の設定値
OnBoard IDE	Both
OnBoard AC '97 Audio	Auto

日時の設定、ハードディスクドライブの設定などを行います。

AMIBIOS SETUP - STANDARD CMOS SETUP										
(C)2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved										
Date (mm/dd/yyyy) : XXX XXX XX, XXXX					Base Memory : XXX KB					
Time (hh/mm/ss) : XX:XX:XX					Extd Memory : XXX MB					
	Type	Size	Cyln	Head	WPcom	Sec	LBA Mode	Blk Mode	PIO Mode	32Bit Mode
Pri Master	: Auto									On
Pri Slave	: Auto									On
Sec Master	: Auto									On
Sec Slave	: Not Installed									
Month	: Jan - Dec									
Day	: 01 - 31	ESC : Exit ↑↓ : Sel								
Year	: 1980 - 2099	PgUp/PgDn : Modify								
F2/F3 : Color										

Date (mm/dd/yyyy)

年（西暦）月日を設定します。

[月/日/年] の項目移動には、キーを使います。

Time (hh/mm/ss)

時刻（24 時間単位）を設定します。

[時：分：秒] の項目移動には、キーを使います。

Base Memory

システムメモリ量を表示します。（表示のみ）

Extd Memory

拡張メモリ量を表示します。（表示のみ）

Pri Master

Pri Slave

Sec Master

Sec Slave

IDE インターフェース上のドライブを設定します。

- ・ Pri Masterメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースの
マスタ (Master)
- ・ Pri Slaveメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースの
スレーブ (Slave)
- ・ Sec Masterメインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェー
スのマスタ (Master)
- ・ Sec Slaveメインボード上の第 2 (Secondary) IDE インタフェー
スのスレーブ (Slave)

本製品のハードディスク 1 台搭載モデルでは、ハードディスクドライブが
[Primary Master] に、CD-ROM ドライブまたはマルチドライブが
[Secondary Master] に設定されています。

ハードディスク 2 台搭載モデルでは、ハードディスクドライブが [Primary
Master] および [Primary Slave] に、CD-ROM ドライブまたはマルチドライ
ブが [Secondary Master] に設定されています。

[Enter] キーを押すと、次の項目が表示されます。

▼ Type

IDE ドライブのタイプを設定します。

- ・ Auto 自動設定
- ・ CD-ROM CD-ROM ドライブまたはマルチドライブ
- ・ Not Installed 使用しない
- ・ 1 ~ 46 HDD のパラメータを選択することができます。
- ・ User HDD のパラメータを設定することができます。



お願い

・ 工場出荷時の設定値以外の設定に変更するとドライブを認識できなくなることがあります。
通常は変更しないでください。

▼ 32Bit Mode

IDE の接続モードを設定します。

- ・ On 32Bit モードで接続する
- ・ Off 16Bit モードで接続する

起動するドライブの順番や周辺装置についての設定を行います。

AMIBIOS SETUP - ADVANCED CMOS SETUP (C)2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved		
Quick Boot	Enabled	Available Options: Disabled ▶ Enabled
1st Boot Device	USB FDD	
2nd Boot Device	CD/DVD	
3rd Boot Device	IDE-0	
Network Boot	Disabled	
Initial Display Mode	Silent	
S.M.A.R.T. for Hard Disks	Enabled	
BootUp Num-Lock	On	
Password Check	Always	
System BIOS Cacheable	Enabled	
		ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F2/F3 : Color

Quick Boot

システムセルフテストの一部を省略し、パソコンを短時間で、起動する設定を有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

1st Boot Device | 2nd Boot Device | 3rd Boot Device

ドライブが起動する順番を指定できます。[1st Boot Device] は起動する際に優先順位が最も高いドライブで、以下 [2nd Boot Device] [3rd Boot Device] と順位が下がります。また、CD-ROM ドライブまたはマルチドライブから起動する場合は、[CD/DVD] を選択します。

また、[F8]キーを押しながらパソコンの電源を入れると、BIOSの設定に関係なく起動ドライブを変更することができます。表示されたメニューから選択してください。

- ・ Disabled
- ・ IDE-0
- ・ CD/DVD
- ・ NETWORK
- ・ USB FDD

Network Boot

ネットワークに接続されているブートサーバから起動するかどうかを設定します。また、**[F12]**キーを押しながらパソコンの電源を入れると、BIOS の設定に関係なくネットワークに接続されているブートサーバから起動することができます。

- ・ Disabled 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

Initial Display Mode

起動時に TOSHIBA ログ画面表示を消すかどうかの設定をします。

- ・ BIOS TOSHIBA ログ画面を表示しない
- ・ Silent TOSHIBA ログ画面を表示する

S.M.A.R.T. for Hard Disks

"S.M.A.R.T." は、"Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology" を表します。

ハードディスクドライブの状態を監視し、いくつかの（すべてではなく）障害を予測する機能です。この機能を使用するには、対応するハードディスクドライブとソフトウェアが必要となります。

- ・ Disabled S.M.A.R.T. 機能を使用しない
- ・ Enabled S.M.A.R.T. 機能を使用する

BootUp Num-Lock

パソコン本体が起動する際にキーボードのテンキーが使用できる状態（NumLock 状態）にするかどうかを設定します。

- ・ Off NumLock 状態にしない
- ・ On NumLock 状態にする

Password Check

パソコン本体が起動するたび、もしくは、BIOS のセットアップを実行するたびにパスワードチェックを行うように設定できます。

パスワードが設定されている場合のみ有効です。

- ・ Setup BIOS のセットアップを実行するたびにパスワード入力画面を表示する
- ・ Always パソコンを起動するたびにパスワード入力画面を表示する

System BIOS Cacheable

より速く動作させるために BIOS ROM の内容をコピーしているシステムメモリのセグメント「F0000h」部の内容を、2 次キャッシュに読み込んだり、2 次キャッシュに書き込むかどうかを設定できます。

- ・ Disabled 設定しない
- ・ Enabled 設定する

5 Power Management Setupの詳細

パソコン本体やディスプレイの省電力機能について設定を行います。

AMIBIOS SETUP - POWER MANAGEMENT SETUP		
(C)2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved		
Thermal Control Mode	Performance	Available Options: ▶ Performance Acoustic Automatic Speed
HDD Acoustic	Enabled	
ACPI Standby State	S3/STR	
PS/2 Keyboard power on function	Disabled	
Power Management/APM	Enabled	
Video Power Down Mode	Suspend	
Hard Disk Power Down Mode	Suspend	
Suspend Time Out (Minute)	Disabled	
After AC/Power Failure	Stays Off	
Wake up Function	Disabled	
Resume On RTC Alarm	Disabled	
RTC Alarm Date	15	
RTC Alarm Hour	12	
RTC Alarm Minute	30	
RTC Alarm Second	30	
		ESC : Exit ↑↓ : Sel PgUp/PgDn : Modify F2/F3 : Color

Thermal Control Mode

CPU の処理速度とファンの回転を設定します。

[Acoustic] に設定するとファンの回転がおさえられ、動作音が静かになります。

- ・ Performance BIOS による制御を行う。
CPU が高温になったときにファンを回し CPU を冷やす。
ファンを回しても温度が下がらない場合は CPU の処理速度を Low にする。
- ・ Acoustic BIOS による制御を行う。
CPU が高温になったときに CPU の処理速度を Low にして温度を下げる。Low にしても温度が下がらない場合はファンを回す。
- ・ Automatic Speed ハードウェアによる制御を行う。
CPU が高温になったときにファンを回し CPU を冷やす。
ファンを回しても温度が下がらない場合は CPU の処理速度を Low にする。

HDD Acoustic

ハードディスクドライブを低騒音モードに設定します。ハードディスクドライブが低騒音モードをサポートしている場合のみ設定できます。

- ・ Disabled 設定しない
- ・ Enabled 設定する

ACPI Standby State

省電力モードの状態を指定します。[S3/STR]の方が、省電力モード時の消費電力を抑えられますが、PCカードスロットまたはi.LINKコネクタまたはUSBコネクタに接続したデバイスによっては、[S3/STR]をサポートしていない場合があります。問題が発生する場合は、[S1/POS]に設定してください。

- ・ S1/POS Power On Suspend : 周辺デバイスの電源を切断する
- ・ S3/STR Suspend To RAM : メモリ以外の電源を切断する
- ・ Auto 自動設定

PS/2 Keyboard power on function

キーボードから電源を入れる機能を使用するかどうかを設定します。

- ・ Disabled 使用しない
- ・ Enabled 使用する

Power Management/APM

省電力管理および、APM(Advanced Power Management)を有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled 無効にする
- ・ Enabled 有効にする

Video Power Down Mode

ビデオサブシステムが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを特定するかどうかを設定します。

[Power Management/APM] が [Enabled] に設定されている場合のみ設定できます。

- ・ Disabled 特定しない
- ・ Stand By スタンバイに移行する
- ・ Suspend サスペンドに移行する

Hard Disk Power Down Mode

ハードディスクドライブが、一定のシステム停止期間後に移行する、省電力モードを特定するかどうかを設定します。

[Power Management/APM] が [Enabled] に設定されている場合のみ設定できます。

- ・ Disabled 特定しない
- ・ Stand By スタンバイに移行する
- ・ Suspend サスペンドに移行する

6 PCI/Plug and Play Setup の詳細

プラグアンドプレイや PCI デバイスについて設定を行います。



Plug and Play Aware O/S

プラグ アンド プレイ対応のシステム (OS) かどうかを設定します。

- No プラグ アンド プレイに対応していない OS を使用する
- Yes プラグ アンド プレイに対応している OS を使用する

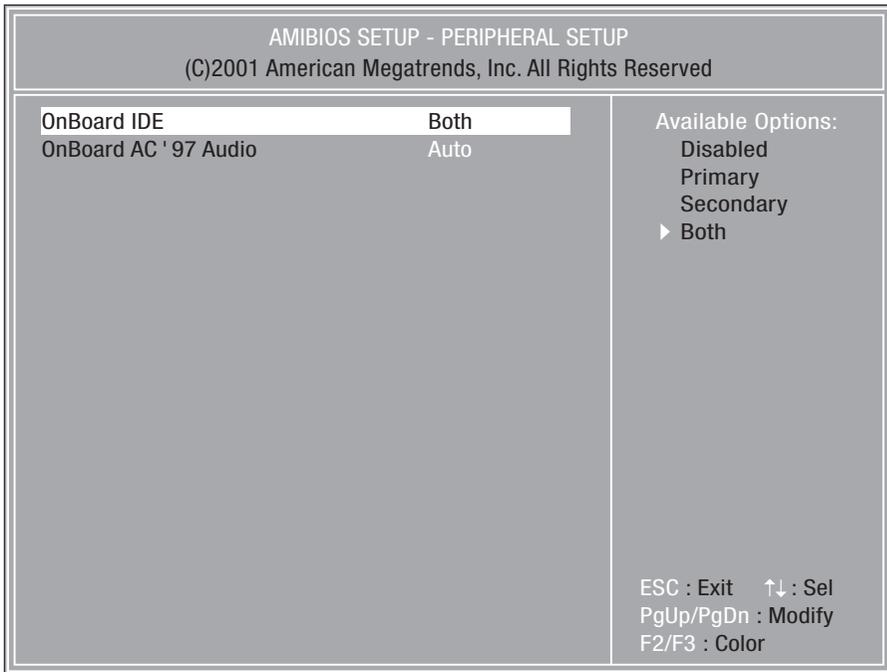
PCI Latency Timer (PCI Clocks)

すべての PCI デバイスの要求待ち時間を設定します。ユニットの設定は、PCI クロックと等しくなります。

- 0
- 32
- 64
- 96
- 128
- 160
- 192
- 224
- 248

7 Peripheral Setup の詳細

周辺機器などの設定を行います。



OnBoard IDE

メインボードの PCI ローカルバスの IDE コントローラを設定します。

- ・ Disabled IDE インタフェース上の全てのデバイスを使用不可にする
- ・ Primary IDE インタフェース上の Primary に接続されているデバイスのみ使用する
- ・ Secondary IDE インタフェース上の Secondary に接続されているデバイスのみ使用する
- ・ Both IDE インタフェース上の全てのデバイスを使用する

OnBoard AC'97 Audio

メインボードのオーディオコントローラを使用するかどうかを設定します。

- ・ Auto 使用する
- ・ Disabled 使用しない

8

Auto-Detect Hard Disks

```

AMIBIOS SETUP - STANDARD CMOS SETUP
(C)2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved

Date (mm/dd/yyyy) : XXX XXX XX, XXXX          Base Memory : XXX KB
Time (hh/mm/ss)   : XX:XX:XX                  Extd Memory : XXX MB

                                     LBA  Blk  PIO  32Bit
                                     Mode Mode Mode Mode
Pri Master : User                    XXXX Mb XXXX XX X   XXX  On  On  4  On
Pri Slave  : Not Installed
Sec Master : CD-ROM                  4  On
Sec Slave  : Not Installed

Month : Jan - Dec                    ESC : Exit  ↑↓ : Sel
Day   : 01 - 31                      PgUp/PgDn : Modify
Year  : 1980 - 2099                  F2/F3 : Color
  
```

接続されているドライブを検出します。

ドライブが検出されると [Standard CMOS Setup] の項目にある [Type] が [Auto] 以外の接続されているドライブに変わります。

9 Password の設定

- パソコン本体にパスワードを設定して、他の人がパソコンを使用したり、設定を変えたりできないようにすることができます。
- 電源投入時にパスワードを正しく入力しないとパソコン本体は使用できません。
- パスワードにはユーザパスワード (User Password) と管理者用パスワード (Supervisor Password) の2つがあり [Change User Password] では User Password を、[Change Supervisor Password] では Supervisor Password を設定できます。

Supervisor Password を設定しないと User Password を設定することができません。



お願い

- ・パスワードを登録する場合は、忘れないように必ずパスワードを控えてください。
- ・パスワードを登録した場合は、省電力モード時 (休止状態) から復帰するときにも、パスワードの入力が必要になります。
- ・パスワードは表示されませんので確認することはできません。
- ・パスワードを忘れてしまった場合は、同梱の『保守サービスのご案内』をご覧のうえお近くのサービスステーションにパスワードの解除をご依頼ください。
パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書 (お客様ご自身を確認できる物) の提示が必要となります。

Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定、変更を行います。

[Change Supervisor Password] でパスワードを設定している場合、パソコンを起動すると「Enter CURRENT Password」というメッセージが表示されます。設定したパスワードを入力すると画面が表示されます。

パスワードの設定や変更は次の入力画面が表示されますので、手順に従って入力してください。

▼ Enter current supervisor password

現在のパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押します。

▼ Enter new supervisor password

新しいパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押します。

パスワードを解除するときは、何も入力せずに、**[Enter]**キーを押します。

▼ Retype new supervisor password

確認のためパスワードを再入力し、**[Enter]**キーを押します。

パスワードを設定したら何かキーを押すと、メインメニューに戻ります。

Change User Password

ユーザパスワードの設定、変更を行います。[Change User Password] でパスワードを設定している場合、パソコンを起動すると「Enter CURRENT Password」というメッセージが表示されます。設定したパスワードを入力すると画面が表示されます。

Supervisor Password が設定されていないと、User Password を設定することはできません。

パスワードの設定や変更は次の入力画面が表示されますので、手順に従って入力してください。

▼ Enter current user password

現在のパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押します。

Supervisor Password でパソコンを起動した場合は表示されません。

▼ Enter new user password

新しいパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押します。

パスワードを解除するときは、何も入力せずに、**[Enter]**キーを押します。

▼ Retype new user password

確認のためパスワードを再入力し、**[Enter]**キーを押します。

パスワードを設定したら何かキーを押すと、メインメニューに戻ります。



メモ

・ユーザパスワードでパソコンを起動した場合は、BIOS セットアップで設定変更できる項目は制限されます。

付録

本製品の仕様や、その他の設定方法について説明しています。

1	製品仕様	128
2	各インタフェース	132
3	エラーメッセージ	136
4	技術基準適合について	137

1 製品仕様

仕様概要

機種		EQUIUM S5060		
プロセッサ	メインプロセッサ*1	Petium4 2.8GHz/Celeron 2.2GHz		
		1次CACHE : 8KB データキャッシュ/12K μ 命令実行トレースキャッシュ (メインプロセッサ内蔵)		
		2次CACHE : 512KB/128KB		
メモリ	標準メモリ*1	SO-DIMM 256MB/512MB DDR SDRAM PC2100 ECC無し タイプ X		
	増設メモリ	SO-DIMMスロット×1 最大768MB/1GB*1 使用可能 SO-DIMM 128MB/256MB/512MB ECC無し PC2100 タイプ X		
	ROM	FLASH MEMORY 4Mbit (書き換え可能)		
表示機能	コントローラ	Intel 845GV チップセット内蔵		
	ビデオRAM	メインメモリと共有		
	グラフィック表示	640x480 256・64K・16M色 800x600 256・64K・16M色 1024x768 256・64K・16M色 1280x1024 256・64K・16M色*2 1600x1200 256色*2		
LAN機能	伝送速度	100Mbps TX LAN		
	適合規格	100BASE-TX/10BASE-T		
補助記憶装置	HDD*1	1台モデル	3.5型 1台装備 40GB/80GB	
		2台モデル	2.5型 2台装備 40GB x 2台	
	CD-ROMまたはマルチドライブ*1	CD-ROM	最大24倍速	
		マルチドライブ	CD-ROM : 最大24倍速 (読み出し) CD-R : 最大24倍速 (書き込み) CD-RW : 最大24倍速 (書き換え) DVD-ROM : 最大8倍速 (読み出し)	
入力装置	キーボード*1	109Aキー/テンキー付き 小型		
	マウス	2ボタンホイール付きPS/2マウス		
インタフェース	シリアル	1ポート D-Sub 9ピン、16C550互換		
	アナログRGB	1ポート アナログ RGB (3列タイプ)		
	デジタルRGB	1ポート DVI-D		
	LAN	1ポート		
	i.LINK(IEEE1394)	1ポート		
	オーディオ	LINE OUT、マイク端子		
	USB	USB2.0/1.1対応 前面2ポート/背面2ポート		
	PS/2マウス	1ポート		
	PS/2キーボード	1ポート		
PCカードスロット	TYPE II ×1			
内蔵機能	サウンド	AC97準拠サウンドシステム		

機 種		EQUIUM S5060	
カレンダー機能		日付、時計機能 ボタン型バッテリー使用 電池交換可 寿命約3年 *3	
特殊機能	パワーマネージメント	HDD：パワーダウン	
	PnP	Plug & Play対応BIOS	
電源	電源条件	100V 50/60Hz	
	最大消費電力	120W	
周囲温度	動作	10℃～35℃	
	非動作	-20℃～60℃	
相対湿度	動作	20%Rh～80%Rh (ただし結露しないこと)	
	非動作	10%Rh～90%Rh (ただし結露しないこと)	
外形寸法	本体	67 (W) × 200 (D) × 205 (H) mm (ケーブルカバー、台座を除く)	
		87 (W) × 255 (D) × 223 (H) mm (ケーブルカバー、台座を含む)	
	キーボード *1	109Aキー	454 (W) × 173 (D) × 42 (H) mm (非チルトアップ時)
		テンキー付き 小型	382 (W) × 189 (D) × 35 (H) mm (非チルトアップ時)
質量	本体 *1	HDD1台モデル	約3.3kg
		HDD2台モデル	約3.0kg
	キーボード *1	109Aキー	約1.0kg
		テンキー付き 小型	約0.9kg

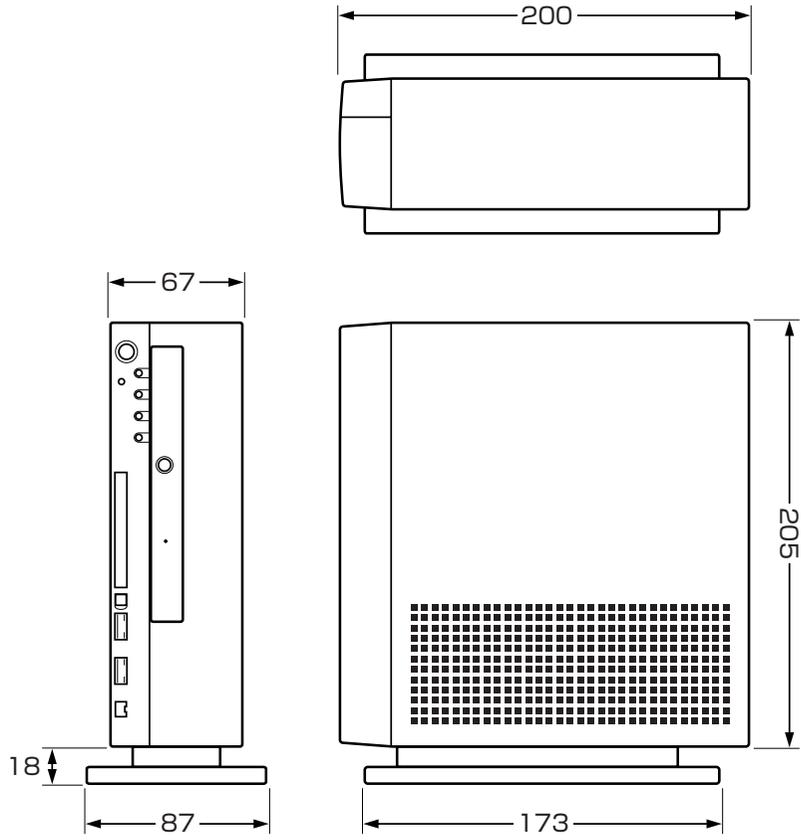
* 1 ご購入のモデルによって異なります。

ご購入のモデルは、本製品添付の「本製品の仕様について」で確認できます。

* 2 デジタルディスプレイでは、1600 × 1200のモードで使用できません。

* 3 使用環境や保管状態により、3年に満たされない場合があります。

● 外形寸法図



(単位：mm)

● ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O マップ、割り込みレベル、DMA チャンネルは次の方法で確認できます。
ご使用の環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

● Windows XP の場合

- 1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする
 - メモリマップ : [メモリ]
 - I/O マップ : [I/O]
 - 割り込みレベル : [IRQ]
 - DMA チャンネル : [DMA]

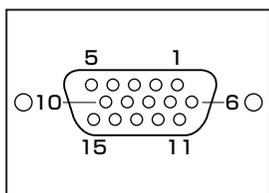
● Windows 2000 の場合

- 1 [マイコンピュータ] を右クリックして [管理] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [システム情報] - [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする
 - メモリマップ : [メモリ]
 - I/O マップ : [I/O]
 - 割り込みレベル : [IRQ]
 - DMA チャンネル : [DMA]

② 各インタフェース

(注) I/O は本体から見た場合の入出力を示します。

● アナログ RGB インタフェース



ピン番号	信号名	意味	I/O
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	ID2	モニタID (未使用)	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	+5V (DDC用)	
10	GND	信号グランド	
11	ID0	モニタID (未使用)	
12	DDCDAT	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号(TTL)	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号(TTL)	0
15	DDCCLK	SCLデータクロック信号	I/O

● アナログ RGB インタフェースの同期信号

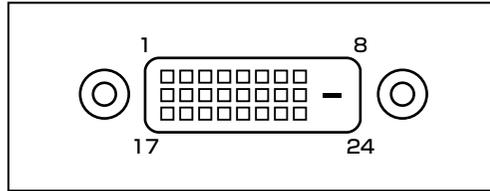
解像度 色数	640x480	800x600	1024x768	1280x1024	1600x1200
	垂直 (Hz)				
256	60-85	60-85	60-85	60-85	60-85
64K	60-85	60-85	60-85	60-85	—
16M	60-85	60-85	60-85	60-85	—

色数 256:256色、64K:65,536色、16M:1,677万色

ご使用になれる解像度、色数は接続するディスプレイによって異なります。

📖 『ディスプレイに付属の説明書』

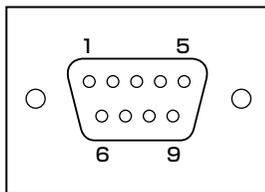
● デジタル RGB インタフェース



ピン番号	意味	ピン番号	意味
1	T.M.D.S.データ2-	13	T.M.D.S.データ3+
2	T.M.D.S.データ2+	14	電圧5V
3	T.M.D.S.データ2/4シールド	15	信号グランド (5V用)
4	T.M.D.S.データ4-	16	ホットプラグ信号
5	T.M.D.S.データ4+	17	T.M.D.S.データ0-
6	DCCクロック信号	18	T.M.D.S.データ0+
7	DCCデータ信号	19	T.M.D.S.データ0/5シールド
8	未使用	20	T.M.D.S.データ5-
9	T.M.D.S.データ1-	21	T.M.D.S.データ5+
10	T.M.D.S.データ1+	22	T.M.D.S.クロックシールド
11	T.M.D.S.データ1/3シールド	23	T.M.D.S.クロック信号+
12	T.M.D.S.データ3-	24	T.M.D.S.クロック信号-

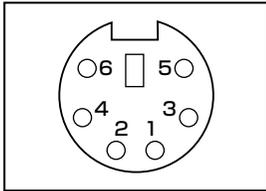
デジタルRGBディスプレイの最大解像度は1280×1024ドットです。

● シリアルインタフェース



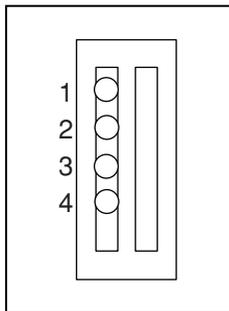
ピン番号	信号名	意味	I/O
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ端末レディ	O
5	GND	信号グランド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I

● キーボード・マウスインタフェース



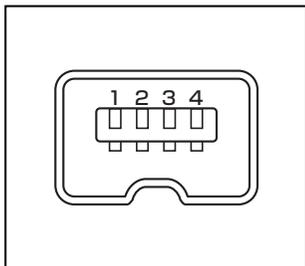
ピン番号	信号名	意味	I/O
1	DATA	データ	I/O
2	Unused	未使用	
3	GND	信号グラウンド	
4	+5V	+5V	
5	CLOCK	クロック	I/O
6	Unused	未使用	

● USB インタフェース



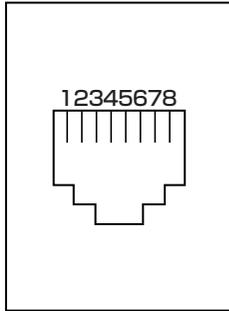
ピン番号	信号名	I/O
1	+5V	
2	-Data	I/O
3	+Data	I/O
4	GND	

● i.LINK (IEEE1394) インタフェース



ピン番号	信号名	意味	I/O
1	TPB-	ストローブ受信/データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信/データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信/ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信/ストローブ送信 (2対の差動信号)	

● LAN インタフェース



ピン番号	信号名	意味	I/O
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

3 エラーメッセージ

この項目では、システム起動時に発生する可能性のあるエラーメッセージおよびブザーについて説明します。



お願い

下記以外のエラーメッセージまたはブザーが発生した場合、または、下記のエラーメッセージまたはブザーが繰り返し発生する場合は、エラーメッセージまたはブザーの内容と現在の本体の設定環境を具体的に記録し、『保守サービスのご案内』をご覧のうえ、すぐにサービスステーションまでお問い合わせください。

● エラーメッセージについて

エラーメッセージ	説明
CMOS Battery LOW	内蔵バッテリーが消耗しています。 新しいバッテリーに交換してください。 ☞ 「4章 2 内蔵バッテリーの交換」
CMOS Setting Wrong CMOS/GPNV Checksum Bad	CMOSでエラーが検出されました。 CMOSの内容がクリアされている可能性があります。 BIOSセットアップを工場出荷時設定に戻してください。 ☞ 「7章 2 BIOSを工場出荷時設定に戻すには」
Boot Failure Reboot and Select Proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device Press any key when ready	システムを起動するドライブが見つかりません。 フロッピーディスクドライブから起動する場合は、システムの入ったフロッピーディスクをセットし、 [Enter] キーを押してください。 ハードディスクドライブから起動する場合は、システムが正しくインストールされているか、また、ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。
Sec Master Drive-ATAPI Incompatible	ディスクドライブが正しく認識されていません。 BIOSセットアップを起動し、ディスクドライブを正しく設定するか、また、ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。 ☞ 「7章 BIOSセットアップについて」
Pri Master HDD Error	ディスクドライブが正しく認識されていません。 BIOSセットアップを起動し、ディスクドライブを正しく設定するか、また、ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。 ☞ 「7章 BIOSセットアップについて」

● ブザーについて

増設メモリを取り付けていてシステム起動時にブザーが鳴った場合は、本装置のオプション以外の増設メモリを取り付けている可能性があります。

本装置のオプションの増設メモリを使用してください。

☞ 「3章 7 増設メモリ」

4 技術基準適合について

● 国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



● 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

● 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

● 高調波対策について

本装置は「高調波ガイドライン適合品」です。

● レーザー製品の取り扱いについて

- ・本製品は、レーザーシステムを使用しています。本製品を正しくお使いいただくため、説明書をよくお読みください。また、お読みいただいた後も必ず保管してください。修理などが必要な場合は、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに依頼してください。
- ・本説明書に記載された以外の調整・改造を行うと、レーザー被爆の原因になりますので絶対におやめください。
- ・レーザー光に直接被爆しないため、絶対に製品を分解しないでください。

クラス1レーザー製品

● 仕様について



お願い

・本製品の仕様は国内向けになっております。海外ではご使用にならないでください。

● 製品寿命について

- 本製品の内蔵バッテリーの寿命は約3年です（使用環境や保管状態により、3年に満たされない場合があります）。



トラブルチェックシート

円滑に対応させていただくために、お問い合わせの前に下記の内容をご確認のうえ、お問い合わせください。

東芝PCダイヤル（巻末参照）にお問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録（ユーザ登録）」いただきますようお願い申し上げます。

Q.1 ご使用になっているパソコン名（型名）は？（本体や取扱説明書をご覧ください）

機種名： _____

お客様登録番号： _____

下記の情報をお尋ねすることがございます。

（製造番号： _____、購入店： _____、購入日： _____ など）

Q.2 ご使用になっているソフトウェア環境は？

Windows® XP・Windows® 2000 など、お使いのシステムとアプリケーションをお知らせください。

OS（システム）名： _____

その他： _____

Q.3 どのような症状が起きましたか？

症状： _____

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

ハードウェアの増設の後（具体的に： _____）

ソフトウェア導入の後（具体的に： _____）

その他（具体的に： _____）

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示内容： _____

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

一度発生したが、その後発生しない 常に発生する

電源を切らないと発生するが、電源を切って再起動すれば発生しない

電源を切ってから再起動しても必ず発生する

その他： _____

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

- ある一定の操作をすると発生する
- どんな操作をしても発生する
- その他： _____

Q.8 インターネットや通信に関するご相談の場合

プロバイダ名： _____

使用モデム名： _____

- 使用回線： ブロードバンド ダイヤルアップ
- 内線発信アリ マイライン契約アリ
- 携帯／PHS DSL／ケーブルTV ISDN

Q.9 お問い合わせの内容が周辺機器の場合、ご使用になっている周辺機器名は何ですか？

機器名（製品名）： _____

メーカー名： _____

オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類については、「東芝 PC 診断ツール」の「基本情報の表示」ボタンをクリックしてご確認ください。

